（様式）

文部科学省

「地域社会に根ざした高等学校の

学校間連携・協働ネットワーク構築事業

（ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想）」

令和５年度 成果報告書

新潟県教育委員会

1. 事業概要

1.1. 本事業に取組む課題と目的

Ⅰ　本事業に取り組む課題

１　本県高等学校教育を取り巻く状況

⑴ 人口減少と少子化の影響

本県の中学校卒業者数は、昭和 38 年春の 70,499 人をピークに減少傾向が進んでいる。平成 30 年には、19,807 人とはじめて２万人を割り込み、令和５年春は 18,430 人となった。令和 14 年春（現在の小学校１年生が中学校を卒業する年）には、15,429 人（令和５年春から 3,001 人減少）となり、75 学級分に相当する生徒数（１学級 40 人で換算）が減少することになり、今後も減少傾向は加速することが見込まれる。

⑵ 県立高等学校等の小規模化の進行

「県立高校の将来構想」（平成 28 年３月策定）においては、望ましい学校規模は１学年あたり４～８学級としている。しかしながら、令和６年春の全日制高等学校等の募集学級数において、３学級以下の学校は 47%を占めている状況にある。

⑶ 通学範囲の広さと通学手段の制限

本県は、日本海に面し、周囲を 1,500 から 2,000 メートル級の山々に囲まれ、離島や中山間地域を含めて様々な土地の条件をもつとともに、全国５位の広大な県土を誇っている。本事業対象の高校等が所在する離島の佐渡市は、東京都 23 区の約 1.4 倍の面積に県立高等学校等が５校点在しているが、島内の公共交通機関はバスのみで、通学には制限が生じている。また、本事業対象の阿賀黎明高校が所在する阿賀町は、福島県境に近く、広い面積を有する豪雪地帯であり、阿賀黎明高校以外の高校へは 30 ㎞以上離れており、居住地域によっては、公共交通機関を利用した登校が困難な生徒もいる。

２　事業に取り組む背景

⑴ 離島・中山間地域の小規模校における教育環境の整備

構成校のうち、１学級募集の小規模校４校においては、教員数の少なさから、生徒の興味関心や進路希望に応じた科目の開設や習熟度別授業の実施が困難な状況にある。加えて、小規模校では、協働的な学びや学校行事等が制限され、多様な生徒と関わる機会が乏しくなり、人間関係が固定化するなどの課題がある。また、佐渡市、阿賀町ともに、自然環境や伝統文化など、魅力的な地域資源が豊富にあり、探究学習をする題材は充分にあるものの、その指導を行う人材の不足も課題となっている。

⑵ 離島・中山間地域の維持・発展を担う人材の育成

佐渡市や阿賀町は、人口減少の進行から、地域産業を担う人材や医療系人材等の確保、産業の高付加価値化への対応など多くの課題がある。こうしたことから、佐渡市では、全ての小中学校で地域の伝統や歴史を学ぶ「佐渡学」を中心に郷土愛を軸としたキャリア教育を展開し、阿賀町では、「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を立ち上げ、公営塾の設置など学校支援を進めており、両自治体ともに、地元高等学校への支援体制が整っている。

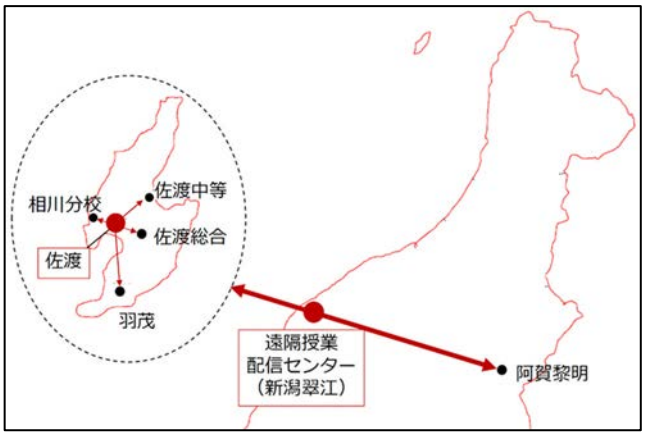
Ⅱ　本事業に取り組む目的

１　「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施による離島・中山間地域の教育の充実

(1) 目的・目標

佐渡市と阿賀町に立地する高等学校等が小規模化の状況にあっても、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設ができるよう教育環境の整備を図る。

(2) 取組内容



○　新潟市内に立地する新潟翠江高校通信制課程を、遠隔授業の配信センターとして位置付け、阿賀黎明高校及び佐渡島内の５校に遠隔授業を配信する。

○　ネットワーク校においては、教育課程の共通化にも取り組み、佐渡高校からの授業配信も実施する。

(3) 育成を目指す資質・能力

○　専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解を深めるとともに、知識を活用する力を育成する。

○　ICT を活用した「協働的な学び」と、習熟度の差に応じた「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成する。

２　地域協働コンソーシアムの支援による、地域を支える人材の育成

(1) 目的・目標

佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤とし、地域と協働しながら有為な人材を育成する。

(2) 取組内容

○　高等学校等と地元自治体等が連携・協働して生徒の学びを支えるコンソーシアムを構築する。

○　コンソーシアムを活用しながら、地域の特徴や課題（歴史、経済、産業、伝統文化、環境等）について深く理解する講演会や体験活動の機会を設定する。

○　地域の人々や構成校の生徒と協働し、探究的かつ実践的な課題研究を実施する。

(3) 育成を目指す資質・能力

○　課題設定に関する知識と課題解決に必要な思考力･判断力･表現力を育成する。

○　多様な人々と関わり、納得解を生み出す創造性･協働性･人間性を育成する。

○　郷土へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画･地域貢献を行う態度を醸成する。

○　地域と地球規模の諸課題を関連付けて､自己のキャリア形成に活かそうとする態度を育成する。

「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」の名称に込められた思い

☆　Sado（佐渡）と Aga（阿賀）と Suikou（新潟翠江）の構成校７校をネットワークでつないだ取組で、新潟の新たな高校教育の未来を拓く。

1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項

１　「教科・科目充実型」遠隔授業の実施に係る調査研究

(1) タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業の実施

本県の遠隔授業では、生徒１人１台端末を前提として取り組んでおり、教職員の端末操作とクラウドの活用の習熟度を高めるとともに、遠隔授業の通年配信の中で、反転学習の要素を踏まえた効果的な授業方法の実証研究も行っている。配信教員は、機器の操作に慣れてきており、今後はより一層授業の質を向上させていくことが目標となる。ICT を活用しながら、生徒同士の意見の発表や共有を行うなど、生徒の主体的・協働的な学びに向けた効果的な遠隔授業の方法をさらに研究する。

(2) 複数校同時配信の遠隔授業に関する調査研究

小規模校の生徒の「協働的な学び」の充実に向け、複数校への同時配信について取り組む。阿賀黎明高校と羽茂高校の校時を揃え、「化学基礎」の遠隔授業を同時配信し、多様な意見に触れ、協働的な学習を可能とする遠隔授業のあり方について研究する。

(3) ネットワーク構成校での教育課程の共通化に関する研究

令和５年度の配信科目において、ネットワーク構成校の教育課程の中で、「地学基礎」の共通化を図り、地学の専門教員配置校から「地学基礎」の配信を４校に行った。阿賀町と佐渡市がもつ地理的環境や地質的特徴をお互いに学び合う機会を創出するなど、共通化した配信科目における遠隔授業のあり方について、複数校同時配信を見据えながら研究する。

(4) 遠隔授業における実験・実習のあり方に関する研究

これまで、理科や芸術等における実験・実技の効果的な指導方法や、VR の活用、地元介護系人材のサポートによる福祉の配信のあり方について検討を進めてきた。その検討を踏まえ、令和５年度は「書道Ⅰ」と「社会福祉基礎」を実施した。どちらも実習を伴う科目であることから、遠隔授業における実験・実習の効果的な指導方法や、先端技術を活用した指導方法を研究する。

(5) 受信体制のあり方に関する研究

国委託事業では、受信教室に教諭以外の学校職員を配置することが、特例的に認められている。本県では、受信側職員として、実習助手や非常勤事務職員を配置し、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う指導等、受信側のサポート体制の検証を進めてきた。令和５年度も、受信側の阿賀黎明高校と羽茂高校において、引き続き教諭以外の学校職員を配置し、受信側職員に係るマニュアルの作成や、指導内容の確認等を行いながら、受信体制のあり方について引き続き研究する。

２　学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究

(1) ネットワーク構成校６校による学校間連携

これまでの取組では、管理機関が中心となって生徒間交流や関係教職員の情報共有の機会を設定してきた。令和５年度は、ネットワーク構成校の生徒及び教職員が主体的にプロジェクトの参画者となれるよう、引き続き、管理機関として生徒間交流（SaGaSu 委員会）や探究活動発表の機会を設定し支援するとともに、令和６年度以降の自走体制構築に向けて取り組む。

⑵ 中高一貫教育校による学校間連携

ネットワーク構成校の阿賀黎明高校（H14 から併設型、H31 から連携型）と佐渡中等教育学校は、小規模な中高一貫教育校であり、人間関係力の育成のための連携・交流ネットワークの形成に向けて取り組む。また、阿賀町立阿賀津川中学校と佐渡中等教育学校前期課程生とで、学校紹介をはじめとした生徒交流を開始し、特色ある学校行事や探究活動の取組についての合同発表実施に向けて取り組む。

⑶ 阿賀黎明高校と羽茂高校による「地域探究コース」の学校間連携

本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組む「地域探究コース」をネットワーク構成校に設置した（令和２年度：羽茂高校、令和４年度：阿賀黎明高校）。離島と中山間地域という異なる環境に立地する「地域探究コース」同士による学校間連携について、定期的な成果発表会の機会の確保等、連携のあり方について検証する。

３　学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究

⑴ 「スクール・ポリシー」の策定を見据えた取組

新潟県教育委員会では、各校との協議及び地元自治体等への意見聴取を踏まえ、令和５年３月にスクール・ミッションを再定義し、公表した。県立高校等は、このスクール・ミッションに基づき、令和５年度にスクール・ポリシーの策定作業を行い、令和６年３月に策定・公表する予定である。このことを踏まえ、阿賀黎明高校と佐渡島内５校では、阿賀町と佐渡市の各コンソーシアムにおいて、各校のスクール・ポリシー策定に向けた協議を行う。

※　スクール・ポリシー（３つの方針）の内容

- 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

⑵ 探究活動を中心としたコンソーシアムの支援のあり方の研究

これまでのアンケート調査の分析において、ネットワーク構成校の「地域の将来に対する明るい希望」や「将来の地域貢献意識」の割合が高くなかったことを踏まえ、各コンソーシアムと情報共有し、特に生徒が直接参画できる機会や環境の充実を図る。また、SDGs の理解促進の機会や、生徒の進路希望に応じた職場体験や各種機会を提供することで、生徒の探究学習の充実や進路実現、そして各校の魅力向上につなげていく。

1.3. ロードマップ

1　３か年の調査研究計画について

<table>
<tr><td rowspan="2">テーマ</td><td colspan="3">新潟の未来を SaGaSu プロジェクト「持続可能な離島・中山間地域を目指して」
～ICT の活用と連携・協働による地域人材の育成モデルの構築～</td></tr>
<tr><td>小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築</td><td>同一自治体内の複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築</td><td>地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築</td></tr>
<tr><td>R３</td><td>〇遠隔授業システムの構築（R３）
〇遠隔授業試行による展開及び評価に関する調査研究（R３）
〇タブレットとクラウドを活用した遠隔授業の実施（R３～R５）</td><td>□佐渡市内５校による学校間連携（R３～R５）
□阿賀黎明高校と佐渡中等教育学校による１学級募集の中高一貫教育校の連携（R３～R５）
□阿賀黎明高校と羽茂高校の「地域探究コース」の連携（R３～R５）</td><td>●地域協働コンソーシアムの構築（R３）
●地域協働コンソーシアムの活動を踏まえた「スクール・ミッション」の再定義及び「スクール・ポリシー」の策定（R３）</td></tr>
<tr><td>R４</td><td colspan="2">校時表の午後時程統一化と学校間連携を活かした遠隔授業の実施（R４・R５）
学校間連携と地域連携・協働による課題研究の実施に関する調査研究（R４・R５）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>〇理科など実習を伴う教科・科目における遠隔授業に関する調査研究（R４・R５）
〇佐渡・阿賀の地質・鉱物等の学習に係る教育課程の共通化に関する調査研究（R４・R５）</td><td colspan="2">●地域と連携・協働した活動による生徒や地域の変容の評価に関する調査研究（R４・R５）
学校間連携と地域コンソーシアムの構築と生徒のキャリア形成に関する調査研究（R５）</td></tr>
<tr><td>R５</td><td colspan="3">最終事業報告会（シンポジウム）の開催と事業評価（R５）
「遠隔授業、学校間連携、地域協働の新潟モデルの創出と、これからの持続可能な離島・中山間地域における人材育成について」</td></tr>
</table>

2　令和６年度以降の計画について

本事業で蓄積した遠隔授業のノウハウを、他のエリアにも拡大し、地理的環境や学校規模に左右されない教育環境の充実を図ることを目的とし、令和５年度より、県独自の事業として「遠隔教育推進事業」を実施する。魚沼エリアや新発田・村上エリア、上越エリアなどの学校に、遠隔授業システム機器の設置を進め、順次、遠隔授業を実施していく。また、遠隔授業の拡大実施に向け、新潟翠江高校通信制課程に加え、令和８年度の開設を目指し、新たな配信センターの設置について検討する。

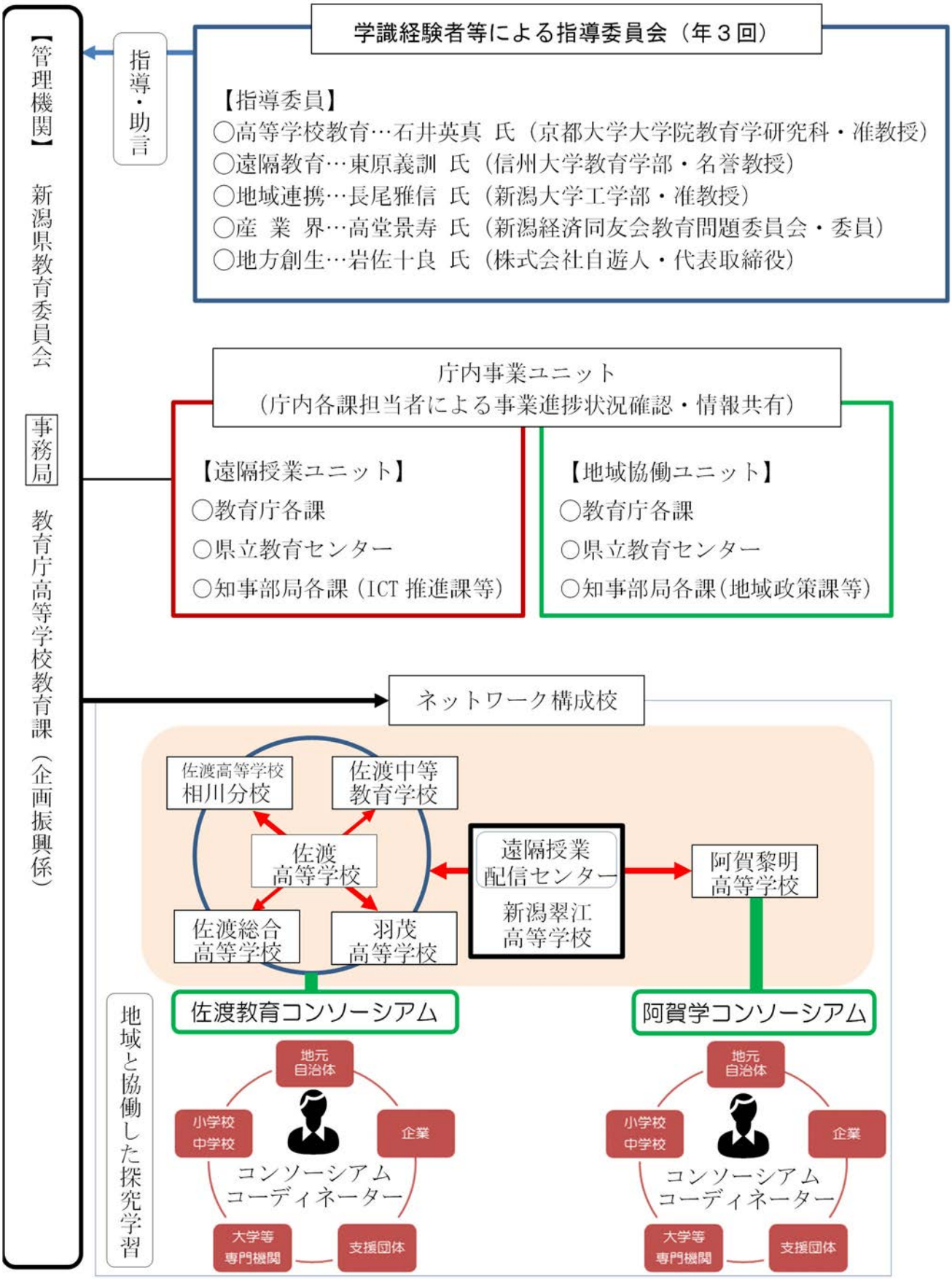
2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

2.1. 調査計画　※表の左側

年月	計画内容	
	高等学校等の連携による遠隔授業など ICT を活用した取組 （　○：遠隔授業　□：学校間連携　）	**地元自治体等の関係機関と連携･協働した取組**
５年４月	○配信教員による受信校訪問 （遠隔授業オリエンテーション） **○遠隔授業の通年配信開始（16 科目）** □第１回 SaGaSu 委員会 ・探究活動の取組継続・県外校との交流・SNS による魅力発信	●管理機関のコンソーシアム担当者との打合せ ●佐渡教育コンソーシアム総会 ●佐渡教育コンソーシアム幹事会① （SaGaSu 委員会の代表生徒も参加）
５月	□第２回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けての準備 □SaGaSu ゼミ（キックオフ） １年（探究スキル講演） ２年（SDGs によるグループ分け） 庁内ユニット会議①の開催 CORE ハイスクール・ネットワーク構想担当者会議への参加	●阿賀黎明高校学校運営協議会① ●阿賀黎明高校探究パートナーズによる「阿賀学」「地域学」支援開始 ●各コンソーシアム･コーディネーターが学校の教育活動と地域協力機関のマッチング開始
６月	○遠隔授業のあり方 WG 設立 ･先端技術等を活用した効果的な遠隔授業配信 □第３回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流会実施 第１回指導委員会の開催	●コンソーシアムを活用した各校体育祭の見学・参加呼びかけ
７月	○遠隔授業実施校による県外視察 □第４回 SaGaSu 委員会 ・探究活動、SNS 発信等の中間報告 □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・各種検定対策開始	●佐渡教育コンソーシアムによる SDGs に関する授業実施 ●校外での探究活動支援 ・大学・専門機関や現地研修 ・地元企業でインターンシップ ●コンソーシアム主催の地元企業説明会及び企業訪問の実施（３年）
８月	□中高一貫連携校･地域探究コース連携校による相互訪問 □SaGaSu ゼミ ・１年探究ゼミ（地域魅力理解） ・２年探究ゼミ（各グループの経過報告）	●佐渡教育コンソーシアムによる高校生議会の実施 ●地域住民と連携した各校文化祭の実施に係る企画協議

９月	○管理機関による県外視察 □第５回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けた準備	●阿賀黎明高校学校運営協議会②
１０月	○遠隔授業公開週間 （全県配信、企画評価委員の視察） □SaGaSu ゼミ ・１年探究ゼミ（地域課題理解） ・２年探究ゼミ（ネットワーク校合同探究発表会）	●佐渡教育コンソーシアム幹事会② ●コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施 ・大学、研究所等の学術講演会 ・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ
１１月	最終事業報告会（シンポジウム）開催 ○遠隔授業（全国配信） □学校間連携の取組発表 ●地域の課題解決・魅力発信サミット □第６回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流実施 第２回指導委員会の開催 CORE ハイスクール・ネットワーク全国シンポジウム参加	●コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施
１２月	○遠隔授業のあり方ＷＧ③ □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習（冬季休業中）	
６年１月	□SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・２年ネットワーク校探究活動等成果発表会	●阿賀黎明高校学校運営協議会③ ●生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施
２月	□阿賀黎明、羽茂、佐渡総合の３校合同探究発表会 第３回指導委員会の開催 庁内事業ユニット会議②の開催	●佐渡教育コンソーシアム幹事会③ ●次年度課題研究の共同研究グループのマッチングを検討
３月	○配信教員による受信校訪問 **○遠隔授業の成績評価と単位認定** 管理機関による１年間の取組の総括と次年度に向けた準備 CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業報告会への参加	●管理機関による１年間の取組の総括と次年度に向けた準備

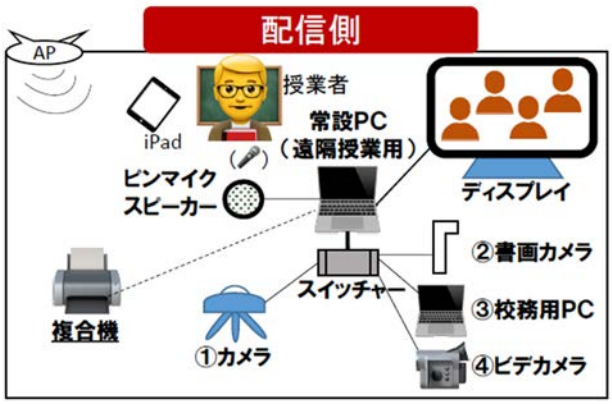
2.2. 実施体制

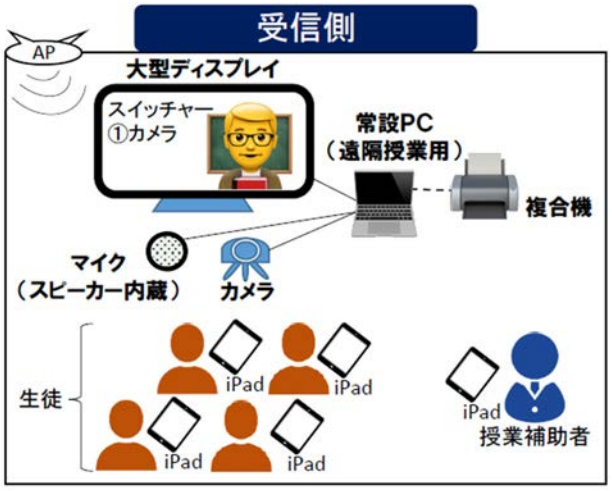

【管理機関】 新潟県教育委員会
事務局 教育庁高等学校教育課（企画振興係）
指導・助言
学識経験者等による指導委員会（年３回）
【指導委員】
○高等学校教育…石井英真 氏（京都大学大学院教育学研究科・准教授）
○遠隔教育…東原義訓 氏（信州大学教育学部・名誉教授）
○地域連携…長尾雅信 氏（新潟大学工学部・准教授）
○産 業 界…高堂景寿 氏（新潟経済同友会教育問題委員会・委員）
○地方創生…岩佐十良 氏（株式会社自遊人・代表取締役）
庁内事業ユニット
（庁内各課担当者による事業進捗状況確認・情報共有）
【遠隔授業ユニット】
○教育庁各課
○県立教育センター
○知事部局各課（ICT 推進課等）
【地域協働ユニット】
○教育庁各課
○県立教育センター
○知事部局各課（地域政策課等）
ネットワーク構成校
佐渡高等学校 相川分校
佐渡中等 教育学校
佐渡 高等学校
佐渡総合 高等学校
羽茂 高等学校
遠隔授業 配信センター
新潟翠江 高等学校
阿賀黎明 高等学校
地域と協働した探究学習
佐渡教育コンソーシアム
地元 自治体
小学校 中学校
企業
コンソーシアム コーディネーター
大学等 専門機関
支援団体
阿賀学コンソーシアム
地元 自治体
小学校 中学校
企業
コンソーシアム コーディネーター
大学等 専門機関
支援団体

2.3. 取組概要

1　遠隔授業システムの構築

生徒１人１台端末の環境を前提とし、汎用性の高い遠隔システムを構築した。以下のように配信側、受信側に機器を設置した。（下記概要図参照）





○　配信側の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71（TOSHIBA）
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U（Tenveo）
27 インチディスプレイ	JN-IPS2705UHDR（JAPANNEXT）
ピンマイク	MM-MCF03BK（SANWA）
スピーカー	MM-SPL6BK（SANWA）
FAX 機能付き複合機	PX-M6711FT（EPSON）
書画カメラ・ペンタブレット	L12F・CRA-2（ELMO）
デジタルスイッチャー	Blackmagic Design Mini Pro（ATEM）
10.1 型モバイルディスプレイ	JN-MD-IPS1010HDR（JAPANNEXT）

○　受信側の機器（製品）一覧

機器種別	製品
Web 会議用ノートパソコン	dynabook A6BDHSE8PC71（TOSHIBA）
Web 会議用カメラ	TEVO-NV10U（TENVEO）
65 インチディスプレイ	FW-65BZ30J/BZ（SONY）
マイク･スピーカーシステム ・拡張マイク（２台）	YVC-1000（YAMAHA） ・ YVC-MIC1000EX（YAMAHA）
FAX 機能付き複合機	PX-M6711FT（EPSON）

２　遠隔授業運営規程の策定

高等学校教育課が令和４年２月に「遠隔授業の実施に係る運用規程」を策定し、配信校や受信校における留意点とともに、学習評価・単位認定等について実施校に周知した。

「遠隔授業の実施に係る運用規程」の主なポイント（抜粋）

Ⅰ　遠隔授業全般

○　遠隔授業の実施にあたって、対面授業は年間２単位時間以上を確保

○　配信側は、当該教科の免許状を保有する教員

○　受信側には、授業補助としての教員（当該教科の免許状の有無は問わない）又はその他の教職員（＊）を配置

＊その他の教職員･･･ 校長の指揮監督下にある学校教職員で、実習助手や会計年度任用職員など。文部科学省事業で特例的に認められた措置。

Ⅱ　配信校

○　配信校（配信教員）の業務

・受信校との協議を踏まえ、年間指導計画及びシラバス、授業配信計画の作成

・遠隔授業及び対面授業の実施

・受信校の教員等の協力を得ながら、配信する教科・科目の学習を評価

○　配信教員には受信校の教諭の兼務を発令

Ⅲ　受信校

○　受信校の業務

・配信教員の業務の補助

・遠隔授業の使用教科書及び副教材の選定

○　授業補助としての教員等の業務

・遠隔授業実施前の教材や機器設定等の準備及び配信教員との事前打合せ

・遠隔授業時における遠隔授業システム機器と生徒用端末の操作補助、タブレット端末等を使用した机間指導

・遠隔授業実施後の機器の後片付け及び配信教員との事後打合せ

※　上記内容を、受信サポート日誌に記録することとする。

Ⅳ　学習評価・単位認定

○　出席時数等の扱いや履修・単位修得の認定に関しては、受信校の規程による

○　定期考査について　・配信側と受信側の役割分担は次の表のとおり

	定期考査業務に係る分担					考査後の授業
配信側	作問			採点(※１)		解説
受信側		印刷	監督		返却(※２)	授業支援

※１…受信校の当該教科主任等が解答用紙を PDF ファイル化し、統合型校務支援システムのグループウェアにて配信教員に送信する。配信教員は、その PDF ファイルをもとに採点。

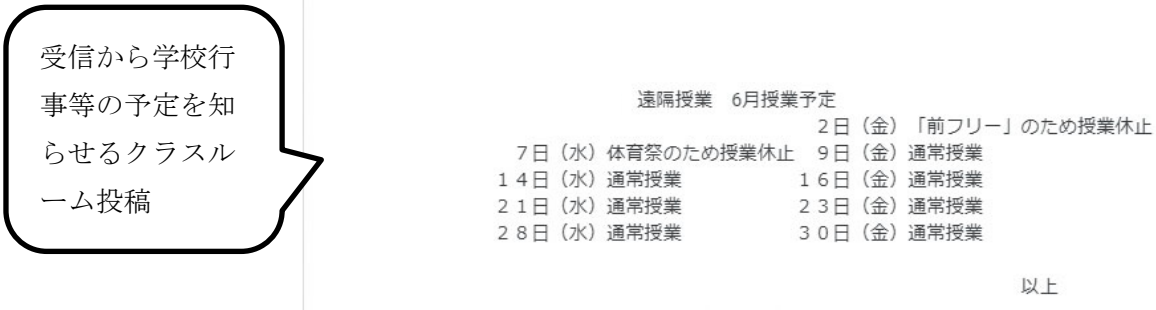
※２…配信教員が統合型校務支援システムのグループウェアにて遠隔授業支援教員等に採点済み PDF ファイルを送付し、遠隔授業支援教員等はカラー印刷したもの及び保管した原本を返却。

３　配信時間割及び予定表の作成

遠隔授業運用規程に基づき、配信校の教頭は、受信校の年間行事計画及び月間行事計画を踏まえ、月ごとに遠隔授業の時間割及び配信予定表を組むとともに、受信校の学校行事や時程に応じて、別途、授業変更の調整も行った。令和５年度は Google Classroom を用いて調整を行った。

【参考】配信校と配信教員、受信職員との連絡調整用クラスルーム「R5 遠隔授業連絡用」

○　遠隔授業の配信予定を関係者で共有するため、「R5 遠隔授業連絡用」クラスルームを作成した。年度当初に配信校より周知を図り、遠隔授業担当教員が各校のスケジュールを入力し、共有化を図った。授業変更や学校行事等の対応がスムーズに行えるようになった。



４　遠隔授業の実施

令和５年度は計 17 科目にわたり遠隔授業を実施し、うち 16 科目は単位認定を伴う通年配信とした。また、文部科学省事業の特例措置により、一部科目で非常勤事務職員や実習助手による受信側補助も継続して実施した。

2.3.1. 遠隔授業実施表ａ　★：同時配信　☆：スポット配信

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/全授業回数
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	芸術	書道Ⅰ	１年	無	多様な教科科目開設	非常勤事務職員	68/70
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	理科	化学基礎★	２年	無	専門性	非常勤事務職員	68/70
佐渡高校	阿賀黎明高校	理科	地学基礎	２年	無	多様な教科科目開設	非常勤事務職員	68/70
新潟翠江高校	阿賀黎明高校	地理歴史	地理Ｂ	３年	無	専門性	教諭（地歴）	103/105
新潟翠江高校	佐渡高校相川分校	芸術	書道Ⅰ	２年	無	免許外教科担任制解消	講師（国語）	67/70
新潟翠江高校	羽茂高校	理科	化学基礎★	２年	無	専門性	教諭（理科）	68/70
佐渡高校	羽茂高校	理科	地学基礎	２年	無	多様な教科科目開設	教諭（理科）	68/70
佐渡総合高校	羽茂高校	地域探究	ソーシャル・デザイン☆	２年	無	免許外教科担任制解消	教諭（家庭）	3/70
新潟翠江高校	羽茂高校	国語	古典Ｂ	３年	無	習熟度	講師（国語）	68/70
新潟翠江高校	羽茂高校	地理歴史	セミナー日本史	３年	無	専門性	実習助手（理科）	103/105
新潟翠江高校	佐渡総合高校	公民	政治・経済	２年	無	免許外教科担任制解消	教諭（数学）	68/70
佐渡高校	佐渡総合高校	理科	地学基礎	２年	無	多様な教科科目開設	教諭（理科）	67/70
新潟翠江高校	佐渡総合高校	福祉	社会福祉基礎	２年	無	免許外教科担任制解消	教諭（家庭）	67/70
新潟翠江高校	佐渡中等教育学校	情報	情報Ⅰ	４年	無	免許外教科担任制解消	教諭（国語）	68/70

新潟翠江高校	佐渡中等教育学校	数学	数学Ｂ	５年	無	習熟度	講師（数学）	68/70
佐渡高校	佐渡中等教育学校	理科	地学基礎	５年	無	多様な教科科目開設	教諭（理科）	68/70
新潟翠江高校	佐渡中等教育学校	外国語	論理・表現Ⅱ	５年	無	習熟度	教諭（外国語）	68/70

【参考】令和５年度　遠隔授業（受信側５校の１週間）の時間割

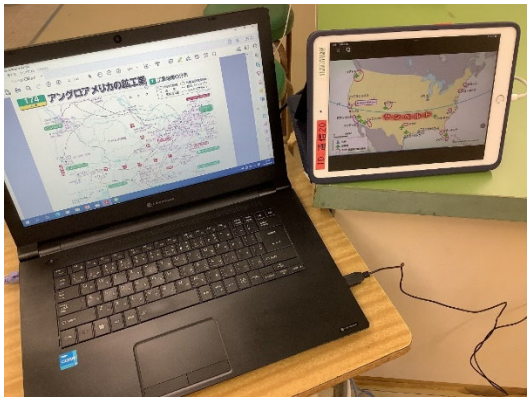
2.4. 取組内容　※配信日誌、受信サポート日誌より

教科・科目	地理歴史・地理Ｂ	単位数	３

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立阿賀黎明高等学校</td><td colspan="2">学年</td><td>３学年</td></tr>
<tr><td colspan="2">受信生徒数</td><td>４名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td colspan="2">教諭（地理歴史）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td colspan="2">配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td colspan="2" rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="4">Classroom、Meet、Google Earth、スライド、Forms、Jamboard</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="4">Book、映像資料、YouTube、NHK 高校講座</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="5">○　授業において、１人１台端末を活用した協働作業等を増やしたことにより、生徒が考え、表現する機会が増え、双方向型の授業に変えていくことができた。
○　Google Earth で生徒が興味・関心ある地域を自分で選んで調べるなど、各種アプリケーションを活用した調べ学習や発表の機会を設定することで、意欲的に授業に参加する態度を育成させることができた。
○　ジャムボードを用いた協働作業を行い、活発に意見が出されていた。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="5">○　年度当初は、音声が時々途切れたり、前の授業との連携がうまくとれず、開始時間が遅れることがあった。
○　（毎時間）機材準備、資料配付等や、（考査時）答案用紙印刷・配付、答案返却（採点済答案を受信し、スキャン）、解答例の印刷と配付等を行った。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

配信側の様子



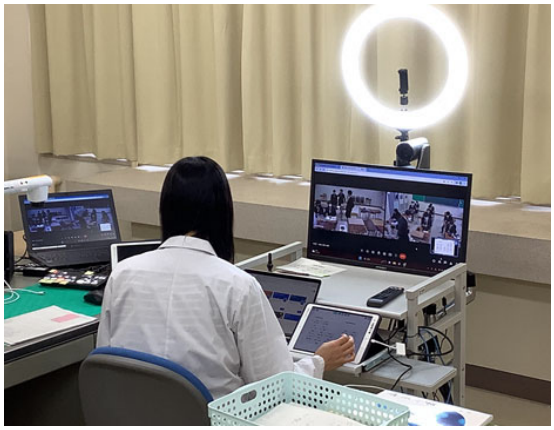
生徒のタブレットに投影する画面

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立阿賀黎明高等学校
新潟県立羽茂高等学校
※合同授業</td><td>学年</td><td>２学年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>阿賀黎明　６名
羽　　茂　10名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>羽　　茂　実習助手</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td>○</td><td>阿賀黎明　事務職員</td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">ロイロノート</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　合同授業における２校の生徒同士の声は問題なくやりとりすることができた。阿賀黎明の生徒は、先生の声が聞こえづらい場面が何回かあった。
○　受信校のモニターには、配信側がはっきり映っているが、配信側のネットワークの接続が不安定で、配信側のモニターには２校の教室が順番に映らなくなる状況があった。
【実験の振り返り】
○　羽茂高校の実験室から阿賀黎明の教室に配信した。タブレット１台と集音マイクだけで配信を行ったが、不便なく行うことができた。何度か阿賀黎明の生徒から、先生の声が聞こえづらいと指摘され、説明し直す場面があった。実験室の雑音も拾ってしまうので、聞き取りづらかったことが考えられる。回線が途中で切れたりするトラブルはなかった。場所を問わず配信できることが分かったことは大きな成果だった。
○　事前にMeetroomを作成し、生徒にグループごとに使用させた。イヤフォンを使用して、生徒同士の声は問題なく聞こえている生徒が多数であった。マイク付きヘッドフォンがあれば、よりクリアにやりとりでき、イヤフォンを準備できない生徒にも配慮できるので、望ましいと感じた。
○　教師間のやりとりは、Meetのチャットで行った。生徒に聞こえない状態でやりとりするには、今後もこれがいいという結論に達した。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　Classroom、ロイロノートの登録、操作に手間取っている生徒への支援
○　音声確認や、質問に対する生徒の解答が通らないときの補助
○　両校の教室の集音マイクを ON のまま行ったが、雑音が多く、聞き取りにくい場面があった。配信教員が長めに話しをするときは、教室の集音マイクをOFFにした方が、聞き取りやすい。(羽茂)
○　配信教員の声が、たまに途切れて聞こえ、遅れて届く場面があった。(阿賀黎明)</td></tr>
</table>

	【実験の振り返り】 ○　授業内の簡単な実験であったが、何が起こるかわからないので、予備等は準備しておいた方がよい。また、実験をしても充分な時間が確保できていたので、余裕をもってハプニングにも対応できた。

【遠隔授業の様子】



配信側の様子

対面授業の様子

タブレット端末に書き込む生徒の様子

グループでタブレット端末を確認する生徒の様子

遠隔授業で実験に取り組む生徒の様子

対面授業で実験に取り組む生徒の様子

【参考】合同授業による実験について

1　日時　令和５年７月 14 日（金）３限

2　場所　羽茂高校　化学実験室（対面授業）

3　内容　ナトリウムの性質

4　方法

(1)　羽茂高校は３グループで実験を行い、阿賀黎明高校の生徒が２人ずつ羽茂高校のグループに入る。

(2)　グループごとに Meet に入り、イヤフォンをつけて、羽茂の生徒が実験の様子を説明しながら配信し、実験結果の写真などもロイロノートで送る。

(3)　実験の様子は、タブレットに集音マイクをつなぐことで、阿賀黎明高校に配信する。

(4)　実験結果を共有し、レポートを作成して全員が提出する。

羽茂高校の実験の様子

5　事後アンケートより

(1) 学習内容の理解度について

９割以上理解できた。	９名
５～８割理解できた。	４名
半分以上理解できなかった。	０名
ほとんど理解できなかった。	０名

(2)　実験の進め方について

ほぼ問題なく行うことができた。	８名
少し不具合があったが、８割以上は問題なくできた。	３名
半分くらい不具合があった。	０名
不具合により、ほとんど使用できなかった。	０名

(3) Google Meet を使用した２校合同グループでの活動の感想

○　他校の生徒と手を振ったり、アイコンタクトを取ったりできて良かったです。

○　実験を２つの学校と協力することができて楽しかったです。

○　２回目のリモートでの実験で、うまくコミュニケーションをとり、阿賀黎明高校の生徒と情報提供などしてとても楽しくできました。また次の実験でもしたいなと思いました。

○　私は、今回、少し慌ててしまいましたが、前回よりもきちんとできてよかったです。次回は、焦らず冷静になって頑張りたいです。お互い協力しながら最後まで終えることができてよかったです。

○　グループの人とのコミュニケーションが楽しかったです。またやりたいです。

○　同じ班の人が、実験するときに説明してくれ、分からないところを質問すると教えてくれたので分かりやすかったです。

○　実験は自分でやったほうが面白いので、次回を楽しみにしています。

(4) ２校合同グループ活動について

機会があれば、また合同グループでやってみたい。	10 名
できれば、グループ活動は学校ごとに行ってほしい。	１名

教科・科目	理科・地学基礎	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立阿賀黎明高等学校
新潟県立羽茂高等学校
新潟県立佐渡総合高等学校
新潟県立佐渡中等教育学校</td><td>受信学年</td><td>２年
（佐渡中等は５年）</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>阿賀黎明　９名
羽　　茂　16 名
佐渡総合　５名
佐渡中等　２名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>羽　茂　教諭（理科）
佐渡総合　教諭（理科）
佐渡中等　教諭（理科）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td>○</td><td>阿賀黎明　事務職員</td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立佐渡高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td>○</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
</table>

主な使用アプリケーション等		
	Google	Classroom、Meet
	その他	問題集等の QR コード、YouTube、PowerPoint

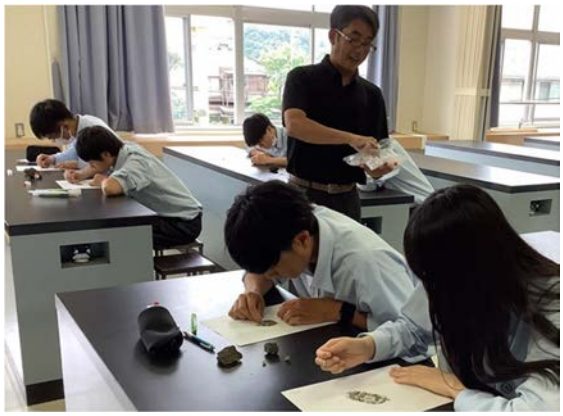
配信側の状況	○　生徒の自由な発言への対応に難しさを感じている。 ○　音声が聞き取りにくいときがあるため、音声を安定させて行いたい。 ○　対面授業について意見交換を行った。 ○　Classroom を用いて考査について生徒に直接連絡することができた。 ○　考査の良かったところを生徒に伝えることができ、生徒と多くのコミュニケーションをとることができた。 ○　スイッチの切り替えを誤るときが複数回あったが、その都度生徒が指摘してくれた。 ○　生徒の体調について（暑さ・寒さ・インフルエンザ）、受信側と情報共有 ○　授業中に通信が一時乱れたが、受信側でしっかり対応してくれた。
受信側の状況	○　少し画面に映っていない部分があったため、声をかけ、修正した。 ○　授業に集中していない生徒に、体勢を起こすよう、声をかけた。 ○　座席が後ろの生徒から、画面が見えにくいと言われたため、座席変更を行った。 ○　テスト日程とテストデータのやりとりについて、確認の打ち合わせを行った。 ○　授業中に指名された生徒の補助を行った。生徒の特性など、配信側にもある程度伝えておく必要があると感じた。 ○　配信用カメラが故障したため、別のカメラを調整した。 ○　端末を忘れた生徒へ、貸出の対応を行った。

	○　配信画面の文字が見えにくかったため、タブレットを用いて画面を拡大して映した。

【遠隔授業の様子】

佐渡高校からの配信側の様子

羽茂高校での対面授業の様子



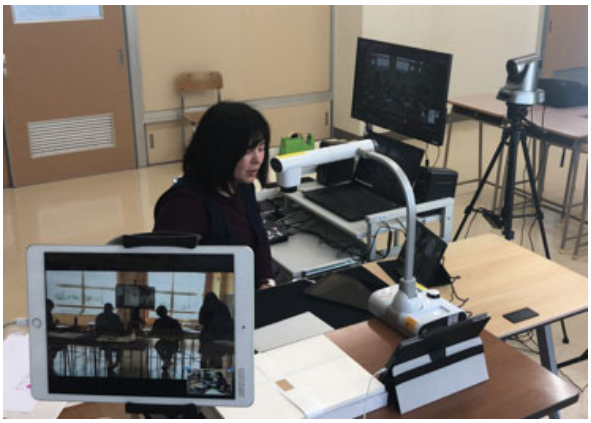
阿賀黎明高校での対面授業の様子

佐渡中等教育学校での対面授業の様子

教科・科目	芸術・書道Ⅰ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立阿賀黎明高等学校</td><td>受信学年</td><td>1年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>4名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td>○</td><td>事務職員</td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校
※配信教員は新潟向陽高等学校教諭</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td>○</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">ロイロノート、フォトプレーヤー</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　配信側と受信側の映像で、映る大きさが異なり、生徒にとっては見えにくい部分があることが分かった。
○　ピンマイクを使用して、音量の調節を図ることができた。
○　個々に異なる作業を行うと、対応の難しさを一層感じるようになった。
○　篆刻の授業で、写真を撮影し、拡大して削るところを記入できるロイロノートを活用した。
○　デザイン書道コンクールの作品をフォトプレーヤーのアプリケーションを使った。生徒は手慣れており、写真と文字をうまく融合させていた。
○　動画を配信し、授業に変化をつけた。生徒は視覚からの情報を得ることができ、動画が役に立ったようであった。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　機器の準備や、モニター画面と音声の確認を行った。
○　授業終了後、生徒が筆を洗い終わった後の洗面所の汚れを確認した。
○　タブレットで生徒の手元を映した。
○　途中で保健室に行く生徒の対応をした。後片付けも行った。
○　タブレットを忘れた生徒への対応を行い、授業がスムーズに進められた。
○　生徒についての情報共有を図った。
○　生徒が草書の書き方を教えてくれた。
○　完成した作品を、コピーして応募用紙と一緒に送った。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】



配信側の様子

受信側補助が、生徒の手元を映し、配信教員へ伝えている様子

受信側の様子

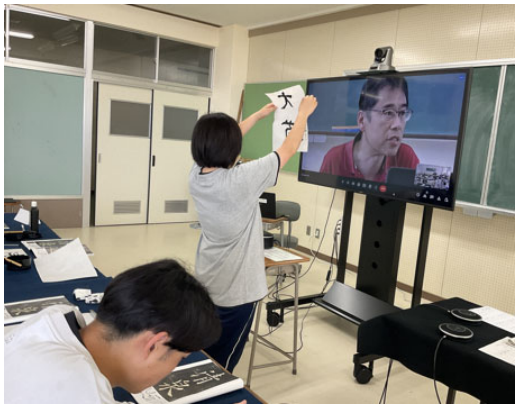
対面授業の様子①（毛筆）

対面授業の様子②（篆刻）

教科・科目	芸術・書道Ⅰ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡高等学校相川分校</td><td>受信学年</td><td>2年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>18名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>講師（国語）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校
※配信教員は新潟東高等学校教諭</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">書画カメラ、YouTube、keynote</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　繊細な筆遣いの「仮名の書」では、書画カメラで拡大して伝えることが有効である。
○　生徒の揮毫の様子等を画像で伝えてもらっているが、仮名の繊細な筆遣いのニュアンスを伝え難く、もどかしさを感じた。
○　「筆の洗い方」の動画を作成して示した。口頭での説明よりも具体的で分かりやすいと感じた。
○　音声にタイムラグがあり、質問に答えさせる際に、大きな声で話さないと聞き取りづらいことがある。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　iPad で生徒の筆遣いを撮影した。
○　真面目に取り組む生徒への賞賛の言葉かけや、授業に集中できていない生徒への注意、励ましなど。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】



生徒が作品を配信教員に見せる様子

対面授業の様子

教科・科目	国語・古典Ｂ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立羽茂高等学校</td><td>受信学年</td><td>２年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>12 名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>講師（国語）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">Goodnote、カフート</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　生徒がアプリケーションの使用に慣れてきて、計画どおりスムーズに授業を実施することができた。
○　生徒がタブレットから回答を送信できているかの確認を受信側補助に依頼した。
○　確認テストの印刷を依頼し、やり方を共有した。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　音声状況の確認や、アプリケーションの受信状況の確認と補助を行った。
○　ペア活動の補助を行った。

生徒がタブレットと教科書、ノートを併用して授業を受けている様子</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

配信側の様子

受信側の様子

教科・科目	地理歴史・セミナー日本史	単位数	3

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立羽茂高等学校</td><td>受信学年</td><td>３年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>２名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>実習助手（理科）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet、Jamboard</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">SideBooks、GoodNotes</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　教師の問いを中心に置くジャムボードの様式がおおよそ仕上がり、生徒は問いを出すことに抵抗がなくなってきたと実感した。
○　ジグソー学習を実施。２名だと、協働学習にも限界があると実感した。
○　探究活動の成果発表会を実施した。生徒の成果発表資料と発表内容が一段とよくなっており、成長を感じられた。
○　昼休みに「質問タイム」をオンラインで行った。授業内で理解できなかったことを個別に質問できたことで、生徒から「分かった！」と声が出たことが何よりの成果だった。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　生徒の作業速度を確認するため、手元をタブレットで撮影した。
○　探究活動評価シートを受け取り、生徒の発表の様子を撮影した。
○　個々の質問に対応するため、ヘッドフォンを準備した。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

配信側の様子

受信側の様子

※スポット配信

教科・科目	地域探究・ソーシャルデザイン	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立羽茂高等学校</td><td>受信学年</td><td>2年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>21名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（家庭）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立佐渡総合高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>有</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">PowerPoint</td></tr>
<tr><td>配信日時</td><td colspan="4">①　令和５年10月５日（木）
②　令和５年12月14日（木）
③　令和６年２月22日（木）</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">①　効果的なプレゼンテーションの方法
②　プレゼンテーションの評価について
③　３校合同での探究発表会（阿賀黎明、羽茂、佐渡総合）</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td colspan="4">【成果】
○　パワーポイントとプリントを使いながら、ポイントを押さえて授業することができた。
○　生徒の理解度を確認しながら、ゆっくりと話すことを意識して授業を進めることができた。

【課題】
○　一方的な授業展開となったため、生徒とのやり取りや生徒同士の意見交換、グループワークでの作業などの工夫をしていきたい。
○　ワークシートを使用ながら授業を行ったが、受信校の生徒の手元の様子や進捗状況が把握できなかった。受信校の補助教諭との連携が必要であると感じた。</td></tr>
</table>

教科・科目	公民・政治経済	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡総合高等学校</td><td>受信学年</td><td>２年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>６名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（数学）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet、Jamboard、Forms</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　日常的に生徒と接して質問を受けたりできないため、Google Classroom をもう少し活用していきたい。
○　授業だけでなく、行事や部活動などで生徒の様子を見たいと感じる。
○　インフルエンザで学年閉鎖のため、受講できる生徒のみ自宅からのオンラインで行った。授業に参加できなかった生徒へも、資料や課題等を Classroom で確認することができるため、タブレット端末整備の恩恵を感じた。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　配信教員が生徒一人一人と会話をしながら、信頼関係を築こうとしていることが伝わる授業を行っている。
○　生徒同士が、助け合いながら協力して取り組む姿勢が感じられる。
○　遠隔授業の取組をとおして、タブレットの操作に慣れ、自分の授業改善にも活かしていきたい。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

受信側の様子

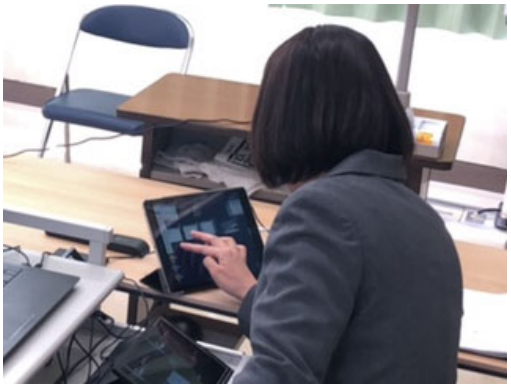
生徒が画面を共有している様子

教科・科目	福祉・社会福祉基礎	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡総合高等学校</td><td>受信学年</td><td>２年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>７名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（家庭）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校
※配信教員は新潟向陽高等学校教諭</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td>〇</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">PowerPoint、ロイロノート</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">〇　ロイロノートの活用により、個人の考えをグループやクラスで共有することができ、その場で様々な意見やアドバイスをすることができた。
〇　ロイロノートのアンケート機能により、時間のかかるアンケートの集約が容易にできるようになった。
〇　盲導犬ユーザーの導線確認のため、教室外に出てグループワークを行い、生徒の様子をタブレット（Meet）で映してもらった。その際、新たに配信教室に設置されたモニターも利用したところ、２画面且つ大画面で確認することができ、指示を出し易かった。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">〇　画面に映像が写らない、音声が入らない等のトラブルがあり、授業開始時刻が数分遅れてしまった。電源を別の場所に変える、Meet の接続をやり直す等の対処により回復することができた。
〇　生徒同士の活動（自己紹介）のサポートを行った。音声が聞こえにくかったため、タブレットで動画検索し、生徒に見せた。
〇　生徒のグループ活動（話し合い）のサポートを行った。ロイロノートでの作業の支援、配信教員への伝達を行い、円滑に授業が進行した。</td></tr>
<tr><td>外部との連携等</td><td colspan="4">・６月26日（月）地域福祉講習会
・７月３日（月）外部講師による講話（新潟医療福祉カレッジより）
・10月２日（月）車椅子ユーザー講習会
・10月30日（月）「認知症に関する講座」「認知症 VR 体験」（株式会社ツクイ）
【振り返り】VR 機器によって認知症をリアルに体験することで、認知症に対する理解が深まった。講習会実施後のアンケートでは、認知症サポーターとして活躍したいという意欲的な回答が大半を占めた。生徒にとっては非常に意義深い体験となったと感じている。
・11月27日（月）「手話講習会」（手話サークルたつのこ他）</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

画面越しに生徒と対話する様子



ロイロノートで課題を配付している様子

車椅子ユーザーの誘導計画を立てる生徒の様子

VR 体験授業の様子

車椅子ユーザー講習会の対面授業の様子

教科・科目	数学・数学Ｂ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡中等教育学校</td><td>受信学年</td><td>５年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>６名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（数学）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet、Jamboard</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">Book、TFabTile</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　今年度の生徒は、昨年度からタブレットを利用しているため、利用についての説明に時間をかけずに、スムーズに進めることができている。
○　TFabTile から特定の生徒が退出している状況があり、受信側と協力して対応している。
○　出席停止の生徒が、リモートで授業に参加した。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　タブレットの充電がなくなっている生徒がいて、延長コードで対応した。
○　スピーカーの前にいる生徒にとっては音量が大きすぎ、他の生徒からは聞こえづらい状況があり、調整に苦労している。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

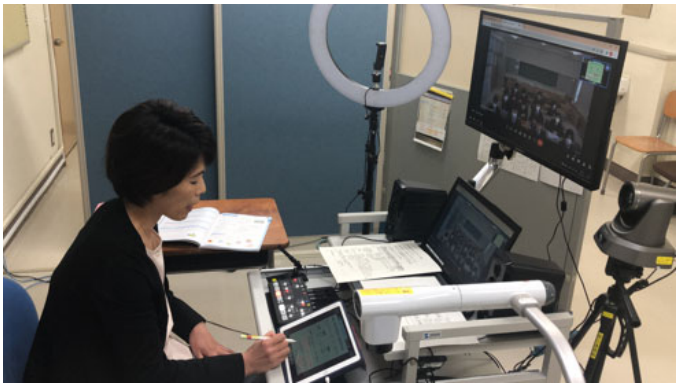
配信側の様子

対面授業の様子

教科・科目	外国語・論理表現Ⅱ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡中等教育学校</td><td>受信学年</td><td>5年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>12名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（外国語）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">ロイロノート</td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　生徒はタブレットの使用に慣れていると感じる。
○　生徒の声が聞き取りづらい課題があり、通常の教室同士をつなぐ Classroom の PC クラスとは別に、生徒にはタブレットクラスに入ってもらい、発言の際はイヤフォンマイクを使ってタブレットクラスの音声が聞けるようにしてみた。だが、画面の切り換えに手間がかかり、スムーズに進まない課題が残った。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　イヤフォンマイクによる個別指導の支援
○　グループ活動の支援
○　テストの振り返りの記入後、撮影したデータを送信
○　発表動画の撮影</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】



配信側の様子

受信側の様子

教科・科目	情報・情報Ⅰ	単位数	2

<table>
<tr><td rowspan="4">受信校</td><td colspan="2" rowspan="2">新潟県立佐渡中等教育学校</td><td>受信学年</td><td>4年</td></tr>
<tr><td>受信生徒数</td><td>22名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受信教室配置職員</td><td>教員</td><td>○</td><td>教諭（国語）</td></tr>
<tr><td>教員以外</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>配信校</td><td colspan="2">新潟県立新潟翠江高等学校
※配信は新潟南高等学校教諭</td><td>配信教室の生徒の有無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="4">遠隔授業で実施する主な理由</td><td colspan="2">多様な教科・科目の開設</td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">習熟度別指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">免許外教科担任制度の解消</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門性の高い指導の実施</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">主な使用アプリケーション等</td><td>Google</td><td colspan="3">Classroom、Meet、Jamboard</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>配信側の状況</td><td colspan="4">○　スライド、iPad（教師、生徒とも）を用いて、授業を進めた。
○　配信側から、手元の iPad で受信側生徒のタブレットに写真やデータを送信しながら授業を展開した。
○　隣同士のペアワークでは、異なる情報をお互いに共有し合う工夫をした。
○　受講人数が多く、席が近いこともあり、隣同士等で相談し合う和やかな雰囲気がある。</td></tr>
<tr><td>受信側の状況</td><td colspan="4">○　観点別評価のため、机間指導を行っている。
○　生徒の発言が聞こえづらいため、マイクを渡して話してもらった。
○　受信側のパソコンで作成したホームページのデータを配信側へ送付した。
○　どこに何を入力するか分からない生徒へ、入力先を伝え、支援した。</td></tr>
</table>

【遠隔授業の様子】

配信側の様子

受信側の様子

2.5. 考察

1　生徒対象授業アンケート結果

年３回（７月、11 月、２月）に受信生徒対象の授業アンケートを Google forms を利用して実施するとともに、管理機関が定期的に授業視察（訪問・オンライン）や、配信教員、受信補助職員等へのヒアリングを継続的に行った。この結果を踏まえながら、これまでの取組から遠隔授業の成果と課題を検証する。

(1) 対象生徒数　141 名（通年の配信授業を受講している生徒数）

(2) 質問項目

○　大型ディスプレイに表示される映像や資料の見やすさ
○　配信する先生の音声の聞き取りやすさ
○　配信教員へ質問や、問いかけに対する回答のしやすさ
○　タブレット端末の操作について
○　通常の授業と比較した、授業の理解度
○　通常の授業と比較した、授業の参加態度（意欲的に参加できたか）
○　通常の授業と比較した、自己表現や協働活動の頻度
○　通常の授業と比較した、
・ノートやプリントに書く時間　　・他の生徒の意見や考えを共有する時間
・一人で考える時間　　・先生に個別に教えてもらう時間
○　他の教科・科目での希望
○　他の学校との合同授業の希望
○　通常の授業と比較した、Google Classroom の活用頻度
○　通常の授業と比較した、自宅課題が出される頻度
○　配信教員から出される自宅課題の難易度
○　遠隔授業への要望

(3) 回答状況と主な質問項目の回答結果（人数と割合）

７月：85 人（60.3%）　11 月：78 人（55.3%）　２月：104 人（73.8%）

○　大型ディスプレイに表示される先生の映像や資料は見やすかったですか。

	７月	11 月	２月
大変そう思う	35 人（41.1%）	31 人（39.7%）	33 人（31.7%）
そう思う	36 人（42.4%）	36 人（46.2%）	51 人（49.0%）
あまり思わない	10 人（11.8%）	10 人（12.8%）	16 人（15.4%）
全く思わない	４人（ 4.7%）	１人（ 1.3%）	４人（ 3.8%）

○　タブレット端末の操作はスムーズに行うことができましたか。

	７月	11 月	２月
大変そう思う	42 人（49.4%）	48 人（61.5%）	51 人（49.0%）
そう思う	31 人（36.4%）	23 人（29.5%）	41 人（39.4%）
あまり思わない	10 人（11.8%）	６人（ 7.7%）	10 人（ 9.6%）
全く思わない	２人（ 1.3%）	１人（ 1.3%）	２人（ 1.9%）

○　通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、授業内容を理解できましたか。

	７月	11 月	２月
大変そう思う	32 人（37.6%）	29 人（37.2%）	32 人（30.8%）
そう思う	28 人（32.9%）	33 人（42.3%）	53 人（51.0%）
あまり思わない	20 人（23.5%）	16 人（20.5%）	15 人（14.4%）
全く思わない	５人（ 5.9%）	０人（ 0.0%）	４人（ 3.8%）

○　通常の授業と同じくらい（またはそれ以上に）、意欲的に参加することができましたか。

	７月	11 月	２月
大変そう思う	39 人（45.9%）	28 人（35.9%）	40 人（38.5%）
そう思う	36 人（42.4%）	40 人（51.3%）	53 人（51.0%）
あまり思わない	７人（8.2%）	８人（10.3%）	８人（ 7.7%）
全く思わない	３人（3.5%）	２人（ 2.6%）	３人（ 2.9%）

○　配信する先生への質問や、先生からの問いかけに対する回答はしやすかったですか。

	７月	11 月	２月
大変そう思う	29 人（34.1%）	23 人（29.5%）	28 人（26.9%）
そう思う	33 人（38.8%）	40 人（51.3%）	47 人（45.2%）
あまり思わない	18 人（21.2%）	13 人（16.7%）	27 人（26.0%）
全く思わない	５人（ 5.9%）	２人（ 2.6%）	２人（ 1.9%）

○　主な自由記述

・先生がワークや休んだ日の授業の解説を丁寧に送ってくれる。
・タブレットで前回やった大事なところをもう一度問題として出していた。
・自分で考えて答える質問が毎回の授業であり、身近で考えることができた。
・発言の機会がたくさんあったので、しっかり授業に参加していると感じた。
・多少画面の文字が見えないところはあったが、質問などは問題なく行うことができた。
・質問を受け付けるためのアンケートなどがあり、質問しやすい環境を作ってくれた。
・プリントをタブレット上に送ってもらえるので、先生の解説と一致してわかりやすい。
・タブレット操作でノートにメモを撮ったりするのが、自分のものを作るようで楽しかった。また、遠隔だから途中接続が切れることもあったけど、それも含めて楽しかった。
・通信が乱れることが往々にしてあり、先生側の資料が切れて見えないことも多かった。

○　２校合同授業に対する意見・感想等

・自分たちにはない考えがあり、それを共有することができた。
・他校の人と共有すると、たくさんの意見が出てすごくいい時間になると思った。
・他校と共同で授業を進めていく中で交流でき、意見交換することができた。
・合同で授業が行われることで、授業の進み方や音声等にストレスを感じた。
・初対面の人と会話をするのが苦手だった。

２　成果と課題

(1) 配信体制について

○　ICT を最大限に活用して、配信教員が意欲的に授業改善に取り組んできた。受講生徒のアンケートにおいては、８割以上の生徒が肯定的な回答をしており、生徒にとっても、充実した授業を実施することができた。

○　１人１台タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業を展開することができ、配信教員の手法も、Google Classroom やロイロノートでの課題の送受信、授業プリント等の画面共有提示、Google ジャムボード等での同時共同編集など、概ね定着してきた。

○　「書道Ⅰ」の授業では、書画カメラや iPad 等、複数のカメラを用いて様々な角度から筆の運び方などを配信した。受信側補助職員が、机間指導で iPad を使い、生徒の作品を投影し、それを配信教員へ送り個別の指導を受けることができた。篆刻指導や、小筆のような細い線を描くときの有効な ICT の活用方法が今後の課題となった。

○　「社会福祉基礎」では手話通訳者や車椅子ユーザーなどの外部講師との連携や、VR の活用による認知症体験などにより、専門性の高い授業を実現することができた。とくに、VR 機器を用いて認知症をリアルに体験することにより、いっそう認知症に対する理解が深まり、受講生徒の事後アンケートにおいて、認知症サポーターとして活躍したいという意欲的な回答が大半を占めた。

○　「地学基礎」をネットワーク校での教育課程の共通科目として位置付け、地学の専門教員配置校から配信した。配信教員も、自身の専門科目を教えることに喜びを感じながら、専門教員による質の高い授業を展開することができた。しかし、自校の授業よりも他校への遠隔授業が多く、自校の校務や学校行事等への支障が生じるなどの課題もあった。

○　「化学基礎」では阿賀黎明高校と羽茂高校の２校で校時を共通化し、同時配信の遠隔授業を実施した。受信校同士をテレビ会議システムにより映像接続し、相手校の様子を確認できる体制を構築した。２校合同のグループを作り、対面授業による実験も複数回実施し、グループ同士での意見交換を行うことができるといったスケールメリットを活かした授業を展開することができた。

○　配信教員を兼務している新潟翠江高校通信制は、スクーリングの都合上、平日３日間に配信が限定されるため、新潟翠江高校を配信拠点とした場合、今後の遠隔授業拡大には課題となる。

○　配信教員が、ICT を活用した遠隔授業で双方向型の授業改善の充実に向けて取り組んできたことで、自校での対面授業にも活かされてきている。

配信教員からの振り返り

・講義形式は極力減らし、授業でしかできない活動を重視しようと再認識した。

・遠隔授業に取り組んでロイロノートを使うきっかけとなったことが最大の収穫だった。もっと早く使えば良かったと後悔した。遠隔での授業をしなければ、未だに使っていなかったかもしれない。

・遠隔授業に取り組んで、世界が広がった。今まで狭い範囲しか見ていなかったことに

気付く大きなきっかけになった。視野が広がったことで、普段の授業でも柔軟な判断や対応ができるようになった。
・佐渡と遠隔授業でつながることで佐渡に魅了され、ますます新潟県への郷土愛が深まった。

(2) 受信体制について

○　教職員（当該教科、当該教科以外)、実習助手、非常勤事務職員を受信側補助として、機器準備、資料配付、授業中の生徒への指導、実験や実習を伴う指導のパターンに分けて、調査研究を進めてきた。

○　事務職員には授業中への生徒への指導が難しいこと、実験や実習を伴う授業では、専門的知識が必要となることから、当該教科の教員が補助を行うべきであることなどが明らかとなった。

○　複数校同時配信の補助（地歴公民や理科を想定）では、配信教員の見取りが複数教室に分散することから、各受信校では、授業中の生徒への適切な対応ができる職員配置が一層必要となることも明らかになった。

2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

1　成果目標（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【授業アンケート】 「遠隔授業は対面授業と同じくらい内容を理解できたか」という質問に対する、肯定的回答の割合		50% 以上	77.5%	達成
【全県調査】 「電子黒板やタブレット端末などICTを活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか」という質問に対する、肯定的回答の割合		50% 以上	89.2%	達成
【学びの基礎診断認定ツール】 ２年生の国数英の学習到達ゾーンが１年間で１ランク以上上がった生徒の割合		10% 以上	16.1%	達成

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目数		25	23	達成 せず
上記のうち、学校設定科目数		18	16	達成 せず

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、免許外教科担任制度の活用件数		12	8	達成

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

ア　学校満足度（学校が進路実現の役に立つ）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合 （高校２年生と中等教育学校５年生が対象）	71.2% （＊）	基準値 ＋５ ﾎﾟｲﾝﾄ	73.6% 基準値 ＋2.4 ﾎﾟｲﾝﾄ	達成 せず

＊令和４年度の全県割合

※目標設定の考え方

例年２月に新潟県教育委員会では、高等学校２年生（全日制・定時制）と中等教育学校５年生を対象に、学校満足度を把握するアンケート調査を実施しており、その中の「進路実現に学校は役に立っている」と感じた生徒の割合は県の教育施策の点検評価の指標ともなっている。各構成校が本事業の取り組んだ成果を定量的に表すことができ、本事業の取組を推奨するためのエビデンスとしても活用できる。

イ　地域への理解や将来の貢献意識

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均72.4%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	78.0%	達成せず
「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均71.4%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	75.7%	達成せず
「自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均81.1%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	85.1%	達成せず

２　ＣＯＲＥハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(1) ネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	見込	実績	達成状況
実施科目数	９科目	16 科目	達成

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	見込	実績	達成状況
学校数	６校	６校	達成

(3) 管理機関が設定した活動指標：遠隔授業に関する公開授業・研究協議会等の開催回数

	見込	実績	達成状況
公開授業	２回	４回	達成
研究協議会	１回	１回	達成

3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

3.1. 調査計画　※表の右側

年月	計画内容	
	高等学校等の連携による遠隔授業など ICT を活用した取組 （　○：遠隔授業　□：学校間連携　）	**地元自治体等の関係機関と連携･協働した取組**
５年４月	○配信教員による受信校訪問 （遠隔授業オリエンテーション） **○遠隔授業の通年配信開始（16 科目）** □第１回 SaGaSu 委員会 ・探究活動の取組継続・県外校との交流・SNS による魅力発信	●管理機関のコンソーシアム担当者との打合せ ●佐渡教育コンソーシアム総会 ●佐渡教育コンソーシアム幹事会① （SaGaSu 委員会の代表生徒も参加）
５月	□第２回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けての準備 □SaGaSu ゼミ（キックオフ） １年（探究スキル講演） ２年（SDGs によるグループ分け） 庁内ユニット会議①の開催	●阿賀黎明高校学校運営協議会① ●阿賀黎明高校探究パートナーズによる「阿賀学」「地域学」支援開始 ●各コンソーシアム･コーディネーターが学校の教育活動と地域協力機関のマッチング開始 CORE ハイスクール・ネットワーク構想担当者会議への参加
６月	○遠隔授業のあり方 WG 設立 ･先端技術等を活用した効果的な遠隔授業配信 □第３回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流会実施	●コンソーシアムを活用した各校体育祭の見学・参加呼びかけ 第１回指導委員会の開催
７月	○遠隔授業実施校による県外視察 □第４回 SaGaSu 委員会 ・探究活動、SNS 発信等の中間報告 □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・各種検定対策開始	●佐渡教育コンソーシアムによる SDGs に関する授業実施 ●校外での探究活動支援 ・大学・専門機関や現地研修 ・地元企業でインターンシップ ●コンソーシアム主催の地元企業説明会及び企業訪問の実施（３年）
８月	□中高一貫連携校･地域探究コース連携校による相互訪問 □SaGaSu ゼミ ・１年探究ゼミ（地域魅力理解） ・２年探究ゼミ（各グループの経過報告）	●佐渡教育コンソーシアムによる高校生議会の実施 ●地域住民と連携した各校文化祭の実施に係る企画協議

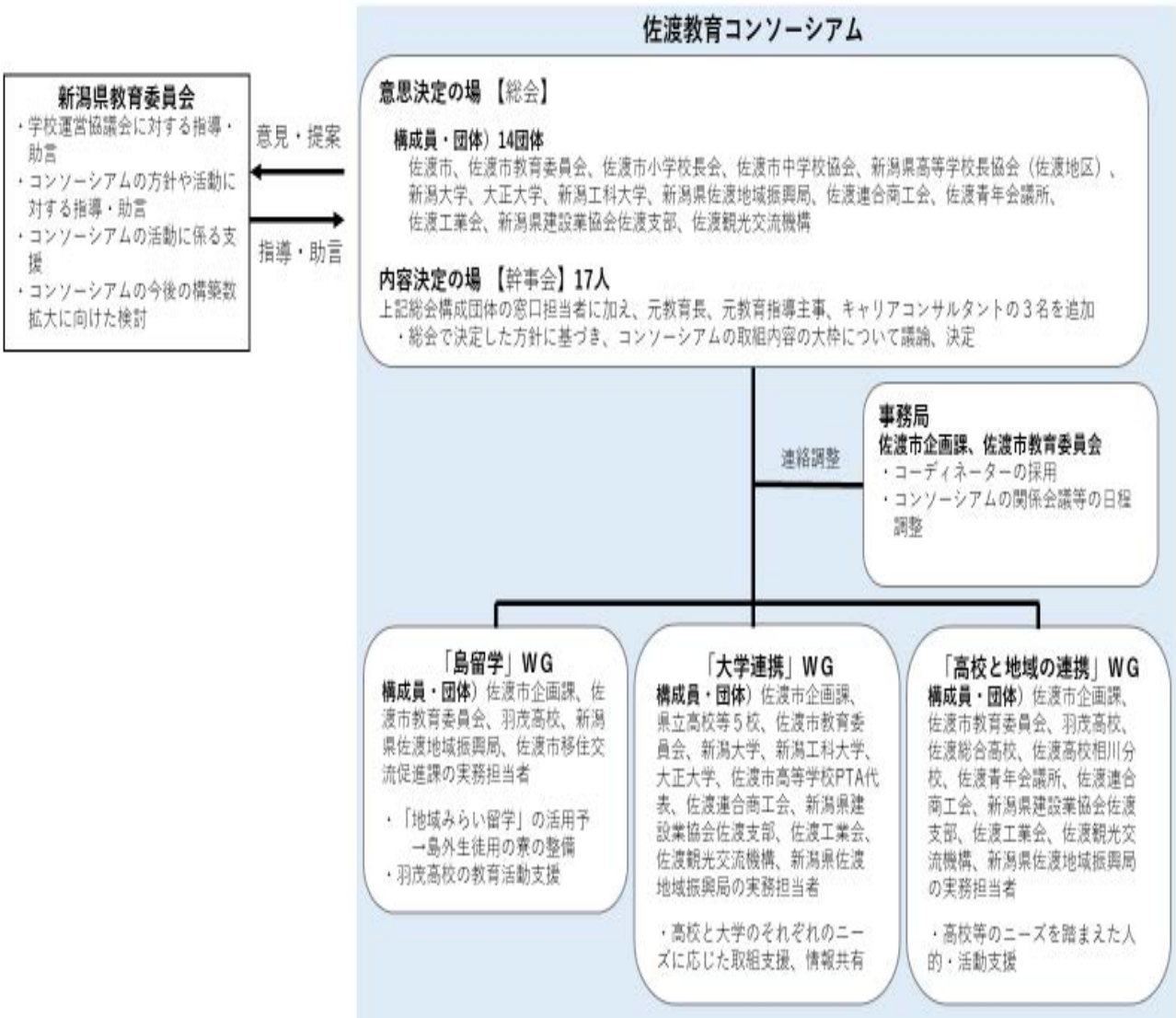
９月	○管理機関による県外視察 □第５回 SaGaSu 委員会 ・県外交流に向けた準備	●阿賀黎明高校学校運営協議会②
１０月	○遠隔授業公開週間 （全県配信、企画評価委員の視察） □SaGaSu ゼミ ・１年探究ゼミ（地域課題理解） ・２年探究ゼミ（ネットワーク校合同探究発表会）	●佐渡教育コンソーシアム幹事会② ●コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施 ・大学、研究所等の学術講演会 ・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ
１１月	最終事業報告会（シンポジウム）開催 ○遠隔授業（全国配信） □学校間連携の取組発表 ●地域の課題解決・魅力発信サミット □第６回 SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流実施 第２回指導委員会の開催 CORE ハイスクール・ネットワーク全国シンポジウム参加	●コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施
１２月	○遠隔授業のあり方ＷＧ③ □SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習（冬季休業中）	
６年１月	□SaGaSu ゼミ ・大学進学対策講習 ・２年ネットワーク校探究活動等成果発表会	●阿賀黎明高校学校運営協議会③ ●生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施
２月	□阿賀黎明、羽茂、佐渡総合の３校合同探究発表会 第３回指導委員会の開催 庁内事業ユニット会議②の開催	●佐渡教育コンソーシアム幹事会③ ●次年度課題研究の共同研究グループのマッチングを検討
３月	○配信教員による受信校訪問 **○遠隔授業の成績評価と単位認定** 管理機関による１年間の取組の総括と次年度に向けた準備 CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業報告会への参加	●管理機関による１年間の取組の総括と次年度に向けた準備

3.2. 実施体制

1　佐渡教育コンソーシアム

【学校名：佐渡高等学校（配信校）、佐渡高等学校相川分校（受信校）、羽茂高等学校（受信校）、佐渡総合高等学校（配信校、受信校）、佐渡中等教育学校（受信校）】

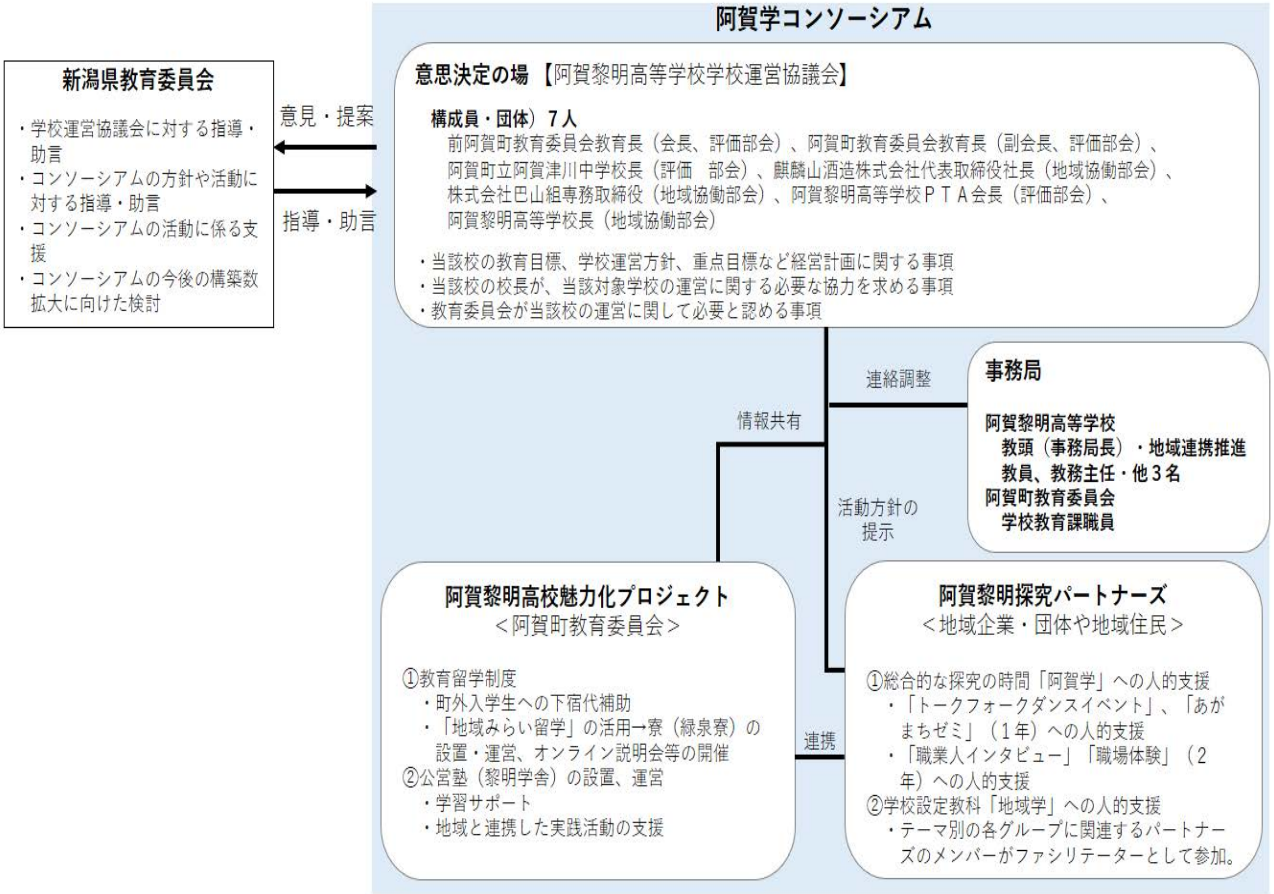
機関名	機関名
佐渡市	新潟工科大学
佐渡市教育委員会	新潟県佐渡地域振興局
佐渡市小学校長会	佐渡連合商工会
佐渡市中学校長会	佐渡青年会議所
新潟県高等学校校長協会（佐渡地区）	佐渡工業会
新潟大学	新潟県建設業協会佐渡支部
大正大学	佐渡観光交流機構



２　阿賀学コンソーシアム

【学校名：阿賀黎明高等学校（受信校）】

機関名	機関名
阿賀町	ＮＰＯ法人かわみなと
阿賀町教育委員会	新潟大学
阿賀黎明高校探究パートナーズ	東蒲原郡森林組合
麒麟山酒造株式会社	阿賀町社会福祉協議会
株式会社巴山組	阿賀町観光協会



※阿賀黎明高校には学校運営協議会が設置されており、公営塾（黎明学舎）や地域住民団体である阿賀黎明高校探究パートナーズが協議会の会議に参加することで、活動支援方針や行動計画が共有されていることから、事実上、コンソーシアム機能を有している。

3.3. 取組概要

1　佐渡教育コンソーシアム

佐渡市は人口減少をはじめとした様々な地域課題を抱えており、このような社会において、子どもたちが自立的に生き、社会に参画する人材となるために必要な資質・能力を育成することが急務となっている。そのため、佐渡市では、小中学校で地域の自然・歴史・文化への理解を深め体系化する「佐渡学」を中心としたキャリア教育に力を入れてきた。

さらに、佐渡市では、地元県立高校等が連携・協働しながら、地域を支える人材育成や地域活性化に取り組むための検討を進め、令和３年３月、佐渡教育コンソーシアムを計 14 団体で構築するに至った。

佐渡教育コンソーシアムの設立（令和３年３月17日）

1　当時の現状・課題
①　学校の存続
・少子化により、既存の学校をすべて現状どおりに存続することか困難な状況である。
・佐渡中等教育学校の存続が危ぶまれている。
②　プラットホーム的な機能
・地域探究やフィールドワーク、キャリア教育等の実施に伴い、事業所や地域団体、大学等とのマッチングの場がない。
2　組織および構成団体
①　組織は、役員で構成される意思決定機関（総会など合意形成の場）と協力団体で構成されるワーキンググループ（学校の魅力化と島留学、大学連携と地域協働）とする。
②　役員・協力団体は、必要に応じ随時参加を依頼する。

【教育関係】
佐渡市小学校長会
佐渡市中学校長会
新潟県高等学校校長協会佐渡地区

【大学関係】
新潟大学
大正大学
新潟工科大学

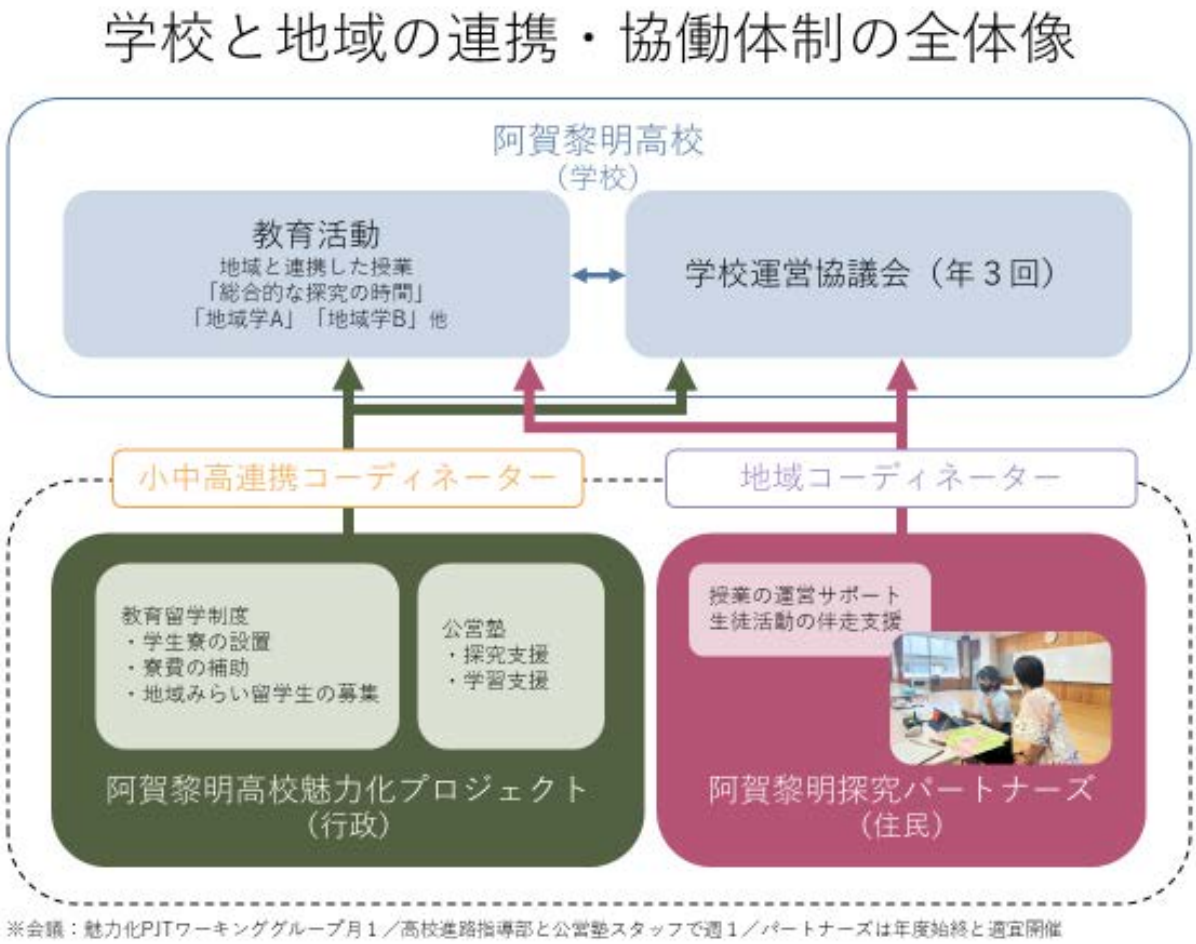
【産業関係】
佐渡連合商工会
佐渡青年会議所
佐渡工業会
新潟県建設業協会佐渡支部
佐渡観光交流機構

【行政】
新潟県佐渡地域振興局
佐渡市
佐渡市教育委員会

（令和５年 11 月 14 日（火）最終事業報告会（シンポジウム）地域連携協働発表資料より）

2　阿賀学コンソーシアム

阿賀町の人口減少や少子高齢化が急速に進む中、町に唯一所在する高校である県立阿賀黎明高校でも小規模化が進行し、近年、恒常的な定員割れが生じている。高校の魅力化を図ることが町の活性化に資すると考え、平成 28 年度から阿賀町は「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を開始し、令和２年度には、新潟県教育委員会が阿賀黎明高校を学校運営協議会設置校に指定し、地域が学校の教育活動を支える体制を構築した。このことを踏まえ、地元自治体、企業、地域住民等による多様な支援により、阿賀黎明高校の教育活動の魅力化に資する組織的活動を展開するに至った。



（令和５年 11 月 14 日（火）最終事業報告会（シンポジウム）地域連携協働発表資料より）

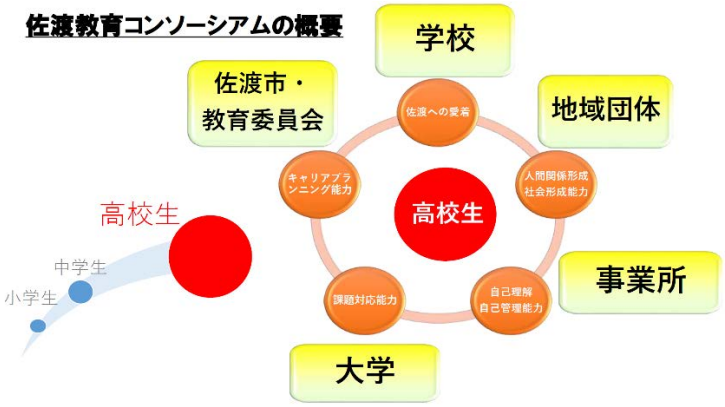
3.3.1. 地域と協働した取組実績

１　佐渡教育コンソーシアム総会の開催

ア　日　時　令和５年４月 28 日（金）13:30～14:30

イ　会　場　アミューズメント佐渡　小ホール

ウ　内　容　組織体制、令和４年度事業報告、令和５年度事業計画（案）について、等



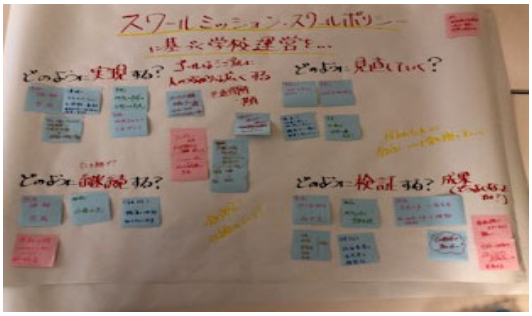
（令和５年 11 月 14 日（火）最終事業報告会（シンポジウム）地域連携協働発表資料より）

２　阿賀黎明高校学校運営協議会の開催

開催日	参加者	主な内容
５月 23 日（火）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	・今年度の活動方針について ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
10 月 10 日（火）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	・今年度の進捗状況について ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
１月 22 日（月）	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	・今年度の振り返りと次年度の活動方針 ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて

学校運営協議会の様子

熟議で意見を出し合う様子



熟議で完成したポスター

3.4. 取組内容

1　佐渡教育コンソーシアムの取組

(1) 各学校からの生徒派遣（佐渡市高校生議会）

佐渡市主催の高校生議会に、佐渡島内の高校、中等教育学校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問やSDGsの17の目標に関連づけた政策提案を行った。

ア　日　時　令和５年８月18日（金）

イ　会　場　佐渡市議会　議場

ウ　内　容　・議会、選挙についての学習　　・議場見学　　・高校生議会

エ　主な代表質問

学校名	質問項目
羽茂高校	「観光活性化のための組織づくり」「島民チャットアプリの開発」 「世界遺産登録を見据えた受入れ態勢の整備」
佐渡中等教育学校	「伐採した竹の処分・活用方法」
佐渡高校	「島内交通の充実」「防災・災害時の対策」
佐渡総合高校	「道路周辺支障木の管理・林業の担い手確保」「観光地の道路整備」

※「佐渡市高校生議会」は今年度で３年目となる取組で、SDGsの理解と市の施策との関連性について学びを深めるとともに、実際に身近な社会である佐渡市の諸課題の解決に向けた政策提案を行う活動により、佐渡の未来について考えることを目的にしたものです。参加生徒は事前に授業を通じて地域が抱える課題を探究し、その解決方法について考えたうえで、佐渡市の諸課題の解決にむけ市長をはじめ執行部に対して観光政策、島内交通の充実、防災や災害時の対応、健康促進や持続可能な社会に向けての教育について代表質問を行いました。自分たちの質問や提案がSDGｓの17の目標のうち、どの目標と関連があるのかを考える中で、これらが他人事ではなく、佐渡や自分たちにも関係がある身近なものとして考える良い機会になったようです。（佐渡市ホームページより抜粋して引用）

集合写真

佐渡総合高校代表生徒

(2) 佐渡高校への支援（職業講話のコーディネート）

ア　日　時　７月18日（火）9:15～11:05

イ　対　象　１年

ウ　講　師・佐渡グリーンフィールド　・河原田保育園　・メレパレカイコ　・佐渡市観光振興部
・新潟県建設業協会　・弥吉丸　・佐渡総合病院　・両津病院　・さどやニッポン
・佐渡テレビジョン　・佐渡市スポーツ協会　・エヌ次元

・リハビリ特化型デイサービスセンターみーお

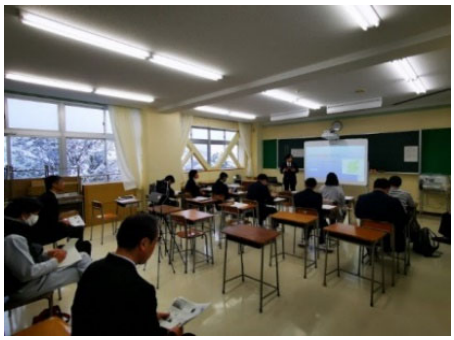
(3) 羽茂高校の地域探究コースへの支援

実施日	学年	主な内容
5月11日（木）	3年	選択科目「生活と福祉」における高齢者体験授業（講師：社会福祉協議会）
5月24日（水）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における職業講話（講師：羽茂在住の全国通訳案内士）
5月25日（木）	2年	地域探究コース「ソーシャル・デザイン」におけるおこし型実習（講師：佐渡市健康推進協会羽茂支部）
6月5日（月）	3年	地域探究コース「地域探究」における佐渡の防災（講師：佐渡地域振興局）
7月24日（月）	3年	地域探究コース「地域探究」　におけるサウスクラブ（障がい者施設パン製造販売）取材
8月19日（土） 8月20日（日）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における宿根木ガイド
10月17日（火）	3年	地域探究コース「地域探究」における羽茂支所取材
10月18日（水）	1年	「海岸清掃活動」（講師：社会福祉協議会）
11月16日（木）	2年	地域探究コース「ベーシック・コミュニケーション」における羽茂小学校読み聞かせ
11月29日（水）	1年	ジオパーク現地研修
12月22日（金）	3年	地域探究コース　「地域探究成果発表会」（出席者：地元自治体、近隣中学校長、佐渡汽船、他）

おこし型実習の様子

防災の講義の様子

取材する生徒の様子



地域探究成果発表会の様子

(4) 佐渡総合高校への支援（「総合的な探究の時間」の講話）

ア　日　時　７月 25 日（火）8:45～9:35

イ　対　象　１年

ウ　講　師　佐渡市企画部総合政策課

エ　内　容　「持続可能な島・佐渡の実現に向けた取組～地域経済の好循環からローカル SDG s を目指す島～」

(5) 佐渡中等教育学校への支援（「佐渡 SDG s 天地人サイエンスプロジェクト」模擬講義）

ア　日　時　６月 21 日（水）14:25～15:13

イ　対　象　２・３年

ウ　目　的　理科への興味・関心を引き出し、理系大学への進学意識を高める。また、佐渡に関係する内容を扱うことで、生まれ育った地域に対する新しい見方や考え方ができるようにする。

エ　講　師　東京理科大学　本間　芳和　名誉教授

オ　内　容　・佐渡に関わりのある世界的研究者について
・半導体回路技術開発について

講義の様子

(6) 地域みらい留学合同説明会（オンライン）

回	日時	人数（延べ）	内容
1	６月 10 日（土）11 日（日）	20 人	・合同学校説明会・テーマ別での説明会（地域みらい留学、探究的な学びについて）
2	７月 22 日（土）23 日（日）	５人	
3	８月 26 日（土）	５人	

(7) 地域みらい留学合同説明会（対面）

ア　日　時　９月 23 日（土）11:00～17:30

イ　会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟

ウ　内　容　・学校についての説明
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
・質疑応答

エ　参　加　羽茂高校での島留学を検討している中学生・保護者　３組

２「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」の取組（地域探究活動の支援）

(1) １年阿賀町さいこうプロジェクト「福祉体験」

ア　日　時　９月 15 日（金）、９月 22 日（金）、10 月６日（金）、10 月 13 日（金）、
10 月 20 日（金）、10 月 27 日（金）

イ　対　象　１年 17 名

ウ　内　容　地域の福祉サロン・老人クラブでのレクリエーション企画・実施をとおして、プロジェクトを実施する流れを理解し、１年後半や２年のプロジェクト企画につなげる。

エ　協　力　阿賀町社会福祉協議会

「福祉体験」に参加する生徒の様子

(2) １年阿賀町さいこうプロジェクト「あがまちゼミ」

ア　日　時　11 月 10 日（金）、11 月 17 日（金）、11 月 24 日（金）、12 月８日（金）、
12 月 15 日（金）、１月 19 日（金）、２月２日（金）、２月９日（金）、３月８日（金）

イ　対　象　１年 17 名

ウ　内　容　プロジェクト実践者との対話をとおして、自らの興味・関心と町の資源・課題をかけ合わせたプロジェクトを企画する。また、探究型学習のサイクルを体験し、問いを立てることや、振り返りをつなげていくことの大切さなどを学ぶ。

エ　協　力　阿賀町社会福祉協議会、阿賀まちづくり株式会社、NPO 法人かわみなと

「あがまちゼミ」に取り組む生徒の様子

(3) ２年阿賀町さいこうプロジェクト

ア　日　時　６月 20 日（火）、９月 14 日（木）、９月 15 日（金）
11 月 20 日（月）

イ　対　象　２年１４名

ウ　内　容　自分の興味関心分野でテーマを設定し、プロジェクトを設計・実施する。
活動実施後は班ごとにスライドとポスターを使って発表する。

エ　活動例　６月 20 日（火）「職業人ポスターセッション」
11 月 20 日（月）「阿賀町子ども未来フォーラム」

阿賀町さいこうプロジェクトに取り組む生徒の様子

(4) 阿賀津川中学校との連携授業

ア　日　時　５月 19 日（金）、６月 20 日（火）、９月 14 日（木）

イ　対　象　阿賀黎明高校２年 14 名、阿賀津川中学校１年 31 名

ウ　内　容　高校生が企画・実施するプロジェクトに中学生が参加し、多様な人と協働する姿勢やプロジェクト型学習の方法を学ぶ。

阿賀津川中学校との連携授業に取り組む生徒の様子

(5)　２年「地域学」（総合・教養学類）におけるプロジェクト活動

ア　日　時　６～11 月　計 10 回

イ　対　象　２年総合・教養学類９名

ウ　内　容　阿賀黎明探究パートナーズ及び地域パートナーと一緒に、地域をフィールドにプロジェクトを企画・実施し、まとめて発表する。
「廃校キャンプ提案プロジェクト」と「おかず／炭づくりプロジェクト」の２チームに分かれプロジェクト活動を実施した。

エ　協　力　阿賀黎明探究パートナーズ

地域学に取り組む生徒の様子

(6) ３年「地域学」（教養学類）「新潟ふるさと CM 大賞」

ア　日　時　５～９月　計 11 回

イ　対　象　３年教養学類　10 名

ウ　内　容　高校生の視点で「ふるさと」を再解釈し、30 秒の CM 制作を体験する。企画・撮影・編集全てを生徒自身で行い、発表する。

エ　協　力　阿賀町役場まちづくり観光課

「地域学」で CM 制作に取り組む生徒の様子など

(7) ３年消費生活（教養学類）「地域社会での消費」

ア　日　時　７～11 月 計 19 回

イ　対　象　３年教養学類　10 名

ウ　内　容　社会における消費者としての自分の役割を理解するとともに、SDGs の視点を踏まえた地域社会における責任（レスポンシビリティ）と主体性（オーナーシップ）を身に付ける。

エ　協　力　麒麟山酒造株式会社、桝屋商店、Refeli～れふぇり～、目黒農園

「地域社会での消費」について学ぶ生徒の様子

(8) ３年フードデザイン（教養学類）

ア　日　時　６～11 月　計 16 回

イ　対　象　３年教養学類　１名

ウ　内　容　食をテーマとした人や場所の関係性をデザインし、地域における暮らしかたを構想・実践する。

エ　協　力　NPO 法人かわみなと

フードデザインの授業に取り組む生徒の様子や生徒の作品

(9) 体育祭・黎明祭「阿賀黎明おもっしぇぞマルシェ」

ア　日　時　体育祭：６月 10 日（土）、文化祭（黎明祭）：11 月３日（金祝）

イ　内　容　阿賀町にゆかりのある事業者のマルシェ出店をとおして、生徒・保護者・地域住民の交流を深め、阿賀町の食・物産品等の魅力を体感するとともに、阿賀黎明高校や阿賀黎明探究

パートナーズの取組をより多くの人に知ってもらうための機会を創出する。

ウ　出店者　阿賀黎明探究パートナーズ、彩海、NPO 法人かわみなと、おかず TO ごはん、(株)E,FAM、久太郎、Happy Kitchen、広谷屋、室屋青年会、麟山堂、Refeli～れふぇり～

体育祭や文化祭（黎明祭）で地域の方々等との交流を深める生徒の様子

３　入学生募集にむけた活動

中学生及びその保護者を対象に、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学し、魅力を体感してもらい、教育留学生と交流する機会を設定した。

回	実施日	参加中学生人数（延べ）	内容
1	６月18日（日）	１人	・学校及び黎明学舎、緑泉寮の見学 ・在校生とのまちあるきワークショップ ・在校生による体験企画、プレゼンテーション
2	７月８日（土）	３人	
3	７月29日（土）	14 人	
4	８月26日（土）	３人	
5	10月14日（土）	７人	
6	11月３日（祝金）	６人	

※　参加中学生の合計 32 人のうち、中学１年生１人、中学２年生６人、中学３年生 25 人（県内 15 人、県外 17 人）

※　上記以外にも、４人（いずれも県外）が阿賀黎明高校、緑泉寮を見学した。

４　「地域みらい留学」高校別説明会

月	参加人数（延べ）
４月・５月	15 人
６月	25 人
７月	22 人
８月	22 人
９月	２人

５　「地域みらい留学」個別相談会（東京会場）

	事前予約	当日相談数
９月 23 日（土）24 日（日）	10 件	24 件

６　「地域みらい留学」オンライン合同説明会

回	日時	参加人数（延べ）
1	６月 10 日（土）11 日（日）	42 人
2	７月 22 日（土）23 日（日）	19 人
3	８月 26 日（土）27 日（日）	24 人

7　公営塾「黎明学舎」の取組

(1) 設置の経緯

阿賀黎明高校の生徒数減少を受け、阿賀町教育委員会が平成 28 年度に設置した。現在は阿賀黎明高校生と町内の中学校に通う中学生を対象に、放課後の学習支援や探究授業の支援を実施している。令和４年度からは、入学者募集の目的から、町内の中学生へ長期休暇中の講習や放課後の出張学習支援を開始した。

(2) 取組の概要

ア　スタッフ　５人（地域おこし協力隊）

イ　登録生徒数　（阿賀黎明高校生 28 人、中学生 16 人）

ウ　放課後学習支援（月曜～金曜　15 時 30 分～20 時 30 分）

学校の授業の予習・復習、課題の自主学習を基本とし、質問がある場合や、学習の仕方が分からない場合はスタッフが支援する。

定期テスト対策、各種検定対策、受験対策など、生徒の要望に合わせて支援を行っている。

エ　探究学習支援

阿賀黎明高校の「総合的な探究の時間」及び学校設定科目「地域学」に対するプログラムの提案や、「阿賀黎明探究パートナーズ」（授業支援を行う地域住民の有志団体）との連絡調整など、探究学習の授業コーディネートや課外活動の支援を行っている。

オ　探究活動、課外活動の取組例

オリジナルラーメン作り、サイクリングツアー企画、配食ボランティア、児童クラブにおけるクリスマス会企画 等

学習支援

夏期講習

サイクリングツアー

3.5. 考察

１　佐渡教育コンソーシアム

○　コンソーシアム設置の３年目を迎え、定期的な会合や連絡を重ねながら、各校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な活動につなげていくことができた。

○　11 月 14 日（火）の最終事業報告会（シンポジウム）において、これまでの取組を全県の学校に周知することができ、１自治体複数校のコンソーシアムモデルケースとして周知させることができた。

○　佐渡教育コンソーシアムは、５つの高校等を支援するという難しさがあり、学校によって取組に差が生じてしまうことや、コーディネーターの負担などが課題となっている。コンソーシアムと学校間で一層の連携が必要となる。

２　阿賀学コンソーシアム

○　高校がコンソーシアム関係者と定期的な会合を重ね、高校の魅力化が町の活性化につながるという共通認識をもち、さまざまな意見交換を行うことができている。

○　11 月 14 日（火）の最終事業報告会（シンポジウム）において、これまでの取組を全県の学校に周知することができ、１自治体１校のコンソーシアムモデルケースとして周知させることができた。

○　「スクール・ポリシー」策定において、学校運営協議会や地域協働部会等をとおして議論を重ね、学校と地域とが一体となって策定に向けて取り組むことができた。

○　「総合的な探究の時間」や「地域学」において、地域コーディネーターだけでなく、「阿賀黎明探究パートナーズ」や「黎明学舎」スタッフも協力し、探究活動の伴走体制を構築することができ、教員の負担軽減につながるとともに、生徒が主体的に取り組む態度を育成することができた。

○　地域みらい留学による学校見学やまなび体験会等をとおして、県内外からの入学志願者が増加傾向である。今後は、阿賀町内の入学志願者増加に向けて、中学生やその保護者に対する一層の取組周知や魅力発信が必要となる。

3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

1　成果目標（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【授業アンケート】 「遠隔授業は対面授業と同じくらい内容を理解できたか」という質問に対する、肯定的回答の割合		50% 以上	77.5%	達成
【全県調査】 「電子黒板やタブレット端末などICTを活用した授業は、学習意欲の向上につながっていますか」という質問に対する、肯定的回答の割合		50% 以上	89.2%	達成
【学びの基礎診断認定ツール】 ２年生の国数英の学習到達ゾーンが１年間で１ランク以上上がった生徒の割合		10% 以上	16.1%	達成

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目数		25	23	達成 せず
上記のうち、学校設定科目数		18	16	達成 せず

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
ネットワーク構成校における、免許外教科担任制度の活用件数		12	8	達成

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

ア　学校満足度（学校が進路実現の役に立つ）

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「あなたの高校卒業後の進路希望の実現のために、現在の高校での学習内容は、直接役に立つと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合 （高校２年生と中等教育学校５年生が対象）	71.2% （＊）	基準値 ＋５ ﾎﾟｲﾝﾄ	73.6% 基準値 ＋2.4 ﾎﾟｲﾝﾄ	達成 せず

＊令和４年度の全県割合

※目標設定の考え方

例年２月に新潟県教育委員会では、高等学校２年生（全日制・定時制）と中等教育学校５年生を対象に、学校満足度を把握するアンケート調査を実施しており、その中の「進路実現に学校は役に立っている」と感じた生徒の割合は県の教育施策の点検評価の指標ともなっている。各構成校が本事業の取り組んだ成果を定量的に表すことができ、本事業の取組を推奨するためのエビデンスとしても活用できる。

イ　地域への理解や将来の貢献意識

把握のための測定方法及び指標	基準値	目標値	実績値	達成状況
【全県調査】 「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均72.4%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	78.0%	達成せず
「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均71.4%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	75.7%	達成せず
「自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか」という質問に対する、肯定的回答の割合	全県平均81.1%	基準値＋10ﾎﾟｲﾝﾄ	85.1%	達成せず

２　ＣＯＲＥハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(1) ネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	見込	実績	達成状況
実施科目数	９科目	16 科目	達成

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	見込	実績	達成状況
学校数	６校	６校	達成

(3) 管理機関が設定した活動指標：遠隔授業に関する公開授業・研究協議会等の開催回数

	見込	実績	達成状況
公開授業	２回	４回	達成
研究協議会	１回	１回	達成

4. まとめ

Ⅰ　小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築

総論

○　生徒１人１台端末の環境を前提とした汎用性の高い遠隔授業システムと運営体制を構築して遠隔授業を実施したことにより、小規模校においても新たな選択科目の開設や外部人材とも連携した専門的指導、協働的な学びの環境等を実現することができた。

○　一方、受信側の適切な補助体制が不可欠であること等を踏まえると、遠隔授業にも限界があることを確認し、一定の学校規模があるからこそ確保できる対面での学びの空間や、学校行事等の体験的活動において切磋琢磨することの意義をあらためて再認識する契機ともなった。

○　今後は、本県の地理的環境及び学校の小規模化の進行を踏まえ、本プロジェクトで構築した基礎的モデルをもとに遠隔授業を拡充することで、教育の質の維持・向上を図りたい。

○　その上で、実証研究で得られた多くの知見や経験を小規模校の教育環境の充実だけでなく、本県における遠隔教育の在り方を検討しながら、生徒の学びの充実とそれを支える教職員の資質向上や人材育成に取り組むことで、本県高等学校教育全体の充実につなげていく体制の構築が必要である。

１　汎用性の高いシステム構築の実現

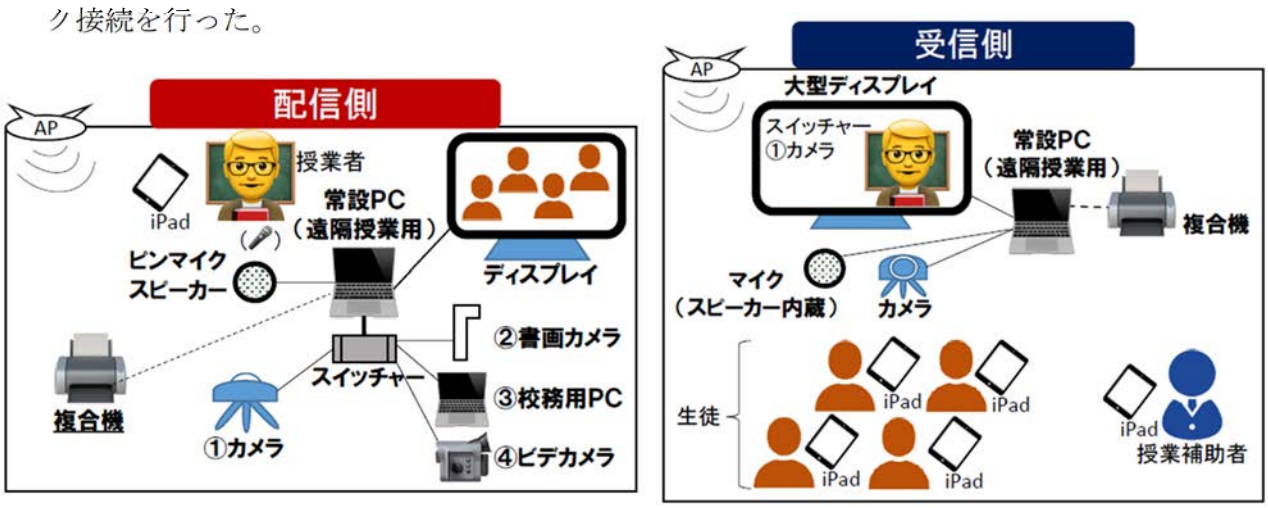
遠隔授業の実施に向けて、機器性能が支障要因とならないように標準以上の性能を持つ機器を整備した。また、Web 会議システム（本県では Google Meet）の活用や機器の構成・操作の単純化に努めるとともに、学校訪問指導を通じて受信側の操作補助を不要にする取り組みを行い、概ね１か月程度で操作トラブルが報告されない状況を確認した。

システムの具体的な特徴としては以下の点が挙げられる。

○デジタルスイッチャーの導入：配信側にデジタルスイッチャーを整備し、Web カメラ、書画カメラ、校務用 PC、教師用 iPad、ビデオカメラの映像を授業の状況に応じて切替可能にした。

○Google Workspace の活用：Google Forms による理解度の確認や Jamboard、スライドの同時共同編集機能を活用して個別指導や協働的な学びを実現した。

○高速無線回線の利用：令和３年度に整備された無線回線（最大１Gbps）を使用してネットワーク接続を行った。



本県の遠隔授業システム構成　概要図

【参考】受信側の音の環境と通信ネットワーク環境について

音の環境については、普段から声量の小さい生徒の回答を配信教員が聞き返す場面が散見され、生徒数の多い（10 人以上）授業では、マイクの集音範囲を意識して通常の対面授業よりも狭い座席間隔とする学校もあった。チャット等の文字機能の活用や教員・生徒双方でヘッドセットの着用等も試行したが、ストレスのない授業環境の改善にはまだ道半ばである。今後は、集音性能の優れた機器の導入やマイクの個数を増やす等のハード面の改善もふまえながら、受信側教室の適切な在り方について引き続き研究する必要がある。

また、通信環境については、ある特定の曜日や時間帯の授業において、通信状況の遅延や中断が確認される事例が確認された。本県では、遠隔授業実施校に通信トラフィックの監視装置を設置して一定期間モニタリングした結果、遠隔授業用の制御 PC のスペック不足ではなく、GIGA スクール構想の標準仕様である通信速度最大１Gbps の通信速度環境やそれに対応したセッション数等に原因があると指摘された。「つながらない」「遅い」通信環境は、安定的な遠隔授業の実施に加え、対面授業における積極的な ICT 活用においての大きな障害となる。通信速度を最大 10Gbps へ変更するなど回線の帯域や品質向上に向けた環境整備を今後検討する必要がある。

＜阿賀黎明高校での検証の様子＞

360 度カメラマイクスピーカーの検証では、座席配置をロの字型にし、生徒の表情把握や集音範囲について確認した。

映像のゆがみ等の性能上の課題はあるものの、集音状況は良好であり、少人数のグループ討議を中心とした授業スタイル等で活用できると考えられる。

２　遠隔授業に求められる配信教員の資質・能力

(1) ICT 活用能力

複数の機器を扱いながらタブレット端末を活用する遠隔授業モデルの推奨に向け、配信教員には ICT 活用能力が重要であるという仮説に基づいて調査研究を進めてきた。人事異動により試行や準備の期間が限られる場合においても、配信教員は機器やタブレット端末の効果的な活用に努め、開始３か月間程度を経ると、授業をテンポよく進行できるようになっている。

ただし、受信側では、大型モニター越しに配信教員の説明を聞く時間が長くなったり、タブレット端末の操作頻度が多い状況では、生徒の集中力が低下することが確認された。

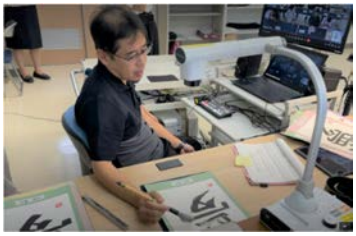
(2) 学習観・授業観、授業構成力

令和５年度の遠隔授業は、実技や実習を伴ったり、複数校へ同時に配信したりするものを含め、延べ 16 科目わたって実施した。その中で、遠隔授業には対面授業と同様に、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた工夫ある授業実践が展開された。以下、具体例を詳述する。

○「書道Ⅰ」の授業

書画カメラや iPad のカメラを活用して複数の視点から筆運びを演示する工夫を行うとともに、受信側補助職員と連携して生徒一人ひとりに対して丁寧な声かけや作品に対する専門的な講評を通じて、遠隔授業であっても意欲的に取り組む受信側教室の雰囲気を作り上げた。

また、例えば篆刻等の作品製作にあたっては、事前の安全指導を確実に対面授業で行うなど、遠隔と対面のメリハリのついた指導計画となっていた。



生徒の作品を講評する書道配信教員の様子

○社会福祉基礎の授業

オンラインの環境特性（同じ空間にはいないが、世界中の多くの人々とつながる特性）と単元の特徴をうまく利用した授業をデザインし、生徒の学びの充実につながった。

配信側の課題を受信側生徒が解決の手段を考える１回目の授業の様子

配信側で外部人材（専門学校講師）と連携する授業の様子

受信側の外部人材と連携してVR を活用した体験的学びを確保した授業の様子

○化学基礎の授業

複数校同時配信の授業では、受信１校の通信状況が悪い場合や、受信校の音声が混在することで配信側の指示が伝わらない等の様々な技術的課題に対して、基本的な対応ノウハウを確立した。また、協働的な学びの機会を増やすため、タブレット端末を活用して２校混在のグループワークや実験も実施した。

複数校同時配信授業における羽茂高校側の様子（左側モニターは配信教員、右側モニターは阿賀黎明高校の様子）

以上のことから、遠隔授業に求められる教員の資質・能力において、ICT 活用能力は授業実践を重ねる中で高められるが、教科の専門性の裏付けと学習観や授業観のアップデートを踏まえた良質な授業のデザイン力こそが配信教員に最も求められる資質・能力であると考えられる。

また、配信教員からは、遠隔授業を「対面授業の再現」ではなく、「遠隔授業ならではの良さ」を考えて授業の実践を重ねたことが、より良い対面授業のあり方を考えることにつながっているとの言及があった。今後、遠隔授業の公開や研究協議の機会の設定が、より良い授業デザインを考える教員研修の機会になると考えられる。

【参考】令和４年度遠隔授業研究協議会（令和５年２月８日実施）

石井英真指導委員（京都大学大学院教育学研究科・准教授）からの指導・助言

○　問いや課題の質、もう少し待って委ねる姿勢と学び（何を経験し、何が残っているか）を見る眼が教師には大切である。リモートで得た授業観や装備を活かして、対面環境を充実させて欲しい。問われるのは対面授業のあり方であり、学習観・授業観の転換のきっかけにしてほしい。

３　遠隔授業の実施において留意すべきこと

(1) 受信側の補助体制の適切な在り方

本県では、国事業の特例により、事務職員や実習助手も受信側補助職員として配置した検証を行い、次の図のようにまとめた。

	当該教科の教員	当該教科以外の教員	実習助手	事務職員
機器準備・資料配付等	○	○	○	○
授業中の生徒への指導	○	○	○	△
実験や実習を伴う指導	○	△	△	△→×
複数校同時配信の補助（地歴公民や理科を想定）	配信教員の見取りが複数教室に分散することから、各受信校では適切な生徒対応ができる職員配置が一層必要			

国事業成果報告会（令和６年１月 30 日、東京都中央区）での本県発表資料より

特に、国事業の特例により取り組んだ事務職員の受信補助については、次の点に課題がある。

○　普段生徒と接する機会が少ないことから、受信側生徒への適切な声掛けや特別な支援を要する生徒への配慮において心理的負担がかかりやすい。

○　実験や実習を伴う授業については、薬品の扱い等、専門的な安全管理が求められるため、事務職員のみで補助することは困難であり、当該教科の教諭等が補助する必要がある。

以上のことから、事務職員の受信補助については、生徒や授業内容の要件を整理した上で、研修等の機会を確保する等が必要であると考えられる。

また、小規模校は教員数のみならず、事務職員や実習助手の配置も限られているため、受信側職員に係る要件緩和の活用は推奨しがたい。よって、新たな人員配置等に係る財政措置について国に要望することが必要だと考える。

また、今後、遠隔授業の拡充が見込まれる場合、これまで蓄積した受信側補助のノウハウを共有できる機会を得ながら人材育成にむけた取組も進める必要がある。

(2) 持続可能な配信体制

本県の実証研究では、通信制課程の教諭と全日制課程の教諭が配信教員を兼務して遠隔授業を実施したが、今後の遠隔授業の拡充を見据えた場合、次の課題を解決する必要がある。

○　通信制課程教諭が兼任：通信制課程のスクーリング日が土日であることから、平日２日間が振替休日となり、配信日が実質平日３日間に限定される。

○　全日制課程教諭が兼任：他校へ配信する理解が得にくいことに加え、受信校の校時と異なる場合は、遠隔授業１単位時間の実施にあたり最大３単位時間分（事前・事後含む）を確保する必要があり、自校の授業担当にも支障が生じる。

以上のことから、将来の配信教員の人材確保・育成の観点から、当面は複数の学校を拠点に配信する体制を維持することに一定の意義は認められるが、本格的な拡充を見据えた場合、本県においても北海道や高知県のように配信専任教員を配置して受信校との調整を図る配信センターを設置する方向で検討することが望ましいと考える。なお、配置先については安定した通信環境の確保が見込め、かつ今後の遠隔教育の在り方や求められる役割、機能等について有識者の意見もいただきながら検討していくことが必要である。

Ⅱ　複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築

【総論】

○　オンライン環境を活用しながら、探究学習を中心とした合同活動や成果発表の機会を確保することで、地理的環境が異なる学校との交流促進につなげることができた。

○　こうした取組により、生徒の主体性や社会性を育てることにもつながるとともに、生徒が他校・他地域との比較を通じて、自校・自地域の魅力の再認識や愛着の醸成にもつながるものと考えられる。

○　ICT 環境が整った現在、国内外の多様な人や学校等との交流が可能となっていることから、教育委員会としては、生徒が多様な価値観に触れられ、切磋琢磨できる環境の構築を推進することで、本県高等学校教育全体の充実につなげていくことが重要である。

1　多様なネットワーク構成校による連携とその課題

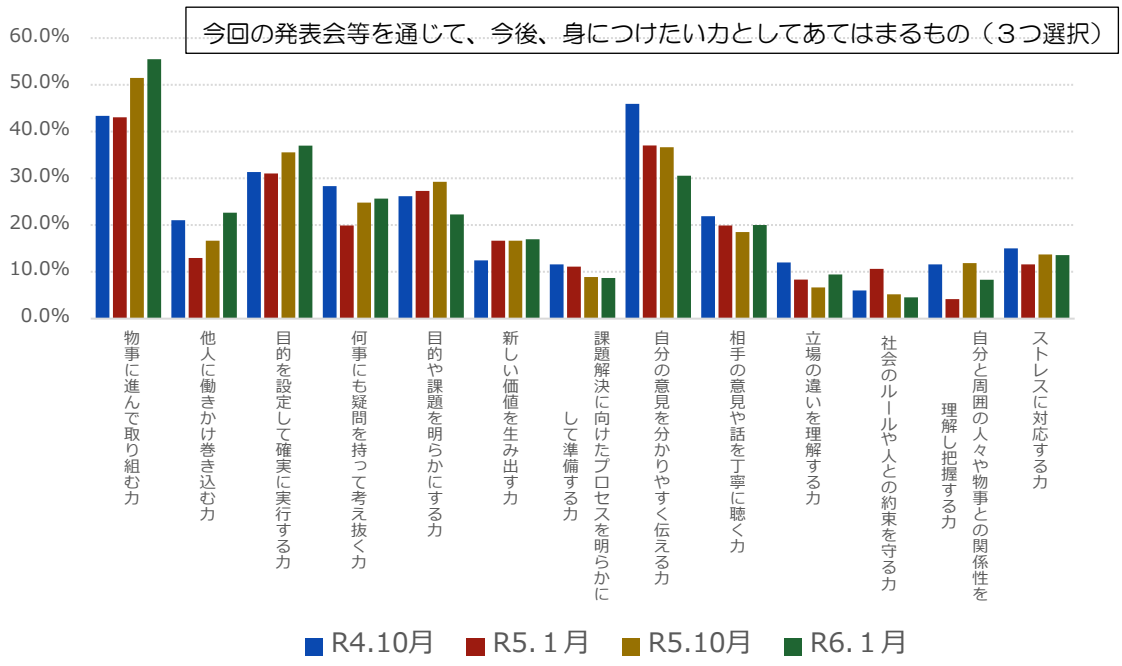
本プロジェクトのネットワーク構成校は、学校種・課程・学科のいずれも同一ではないことから、オンライン環境を活用した生徒間交流により、地理的条件や学校規模に寄らず多様な価値観に触れ、切磋琢磨できる機会を確保した。

特に、探究活動や県外校交流、プロジェクト等の魅力発信をネットワーク校生徒が合同で取り組む生徒組織（SaGaSu 委員会）や、同学年生徒がオンライン上で一堂に会して探究活動の成果発表をする機会（SaGaSu ゼミ）は、普段接することがない他校生徒とグループを形成して意見を交わしたり、生徒一人一人が探究活動の内容を発表することで、多くの生徒がコミュニケーションスキル等の重要性を認識することにつながった。

一方、ネットワーク構成校においては、校時が共通でないことや年間行事計画に位置づけなかったことに伴う連携授業の時間調整に課題があった。今後、多様な学校間連携を実施する場合においては、特に学校間で共通性を確保した環境の構築が必要である。

【参考】SaGaSu ゼミ（探究活動成果発表会）における事後アンケートの結果

回答者：ネットワーク構成校２年生（中等５年生）約 300 人



２　探究活動を中心とした小規模校間の連携とその効果

ネットワーク構成校のうち、１学級募集校の阿賀黎明高校と羽茂高校が地域探究コース設置校として、対面やオンライン環境を利用して探究活動の交流を実施した。成果発表においては、自校だけでは成しえない多数の意見や、中山間地域と離島という異なる生活環境による多様な価値観に触れることができ、小規模校の教育環境の改善に一定の成果が得られた。また、両校の探究活動や全国生徒募集に係る活動・環境整備に対しては地元自治体の支援によるところが大きいが、両校の連携・交流が両自治体同士の情報交換やノウハウ共有の機会にもつながった。

また、本プロジェクトでは広島県や長崎県の小規模高校との交流も実現するとともに、佐渡中等教育学校は、令和５年度から県内各地の中等教育学校の各学年と探究活動の充実に係る講演会や意見交換、成果発表会などを合同で実施することにもつなげている。

こうした ICT 環境の整備が急速に進んだことで、小規模校でも多様な価値観に触れられ切磋琢磨できる環境を構築できる可能性が拡大したことから、本プロジェクトの成果やノウハウを全県に拡大していく必要がある。

羽茂高校の生徒が阿賀黎明高校を訪問して
探究学習の取組を発表している様子

広島県の高校と交流している様子

【参考】中等教育学校間の連携・交流授業

期日	ホスト校	対象学年	内容
７月13日（木）	村上	６年生	探究テーマに基づくワークショップ
８月22日（火）	津南	５年生	「よりよい探究学習のための導入」としての講演会
９月28日（木）	佐渡	２年生	佐渡の伝統文化・芸能、食文化、建築文化、自然、農業等に係る意見交換会
10月27日（金）	直江津	１年生	勤労観や職業観の醸成や海外での医療ボランティアの経験に関する講演会
２月15日（木）	燕	４年生	クリティカルシンキング講座
３月４日（月）	柏崎翔洋	３年生	地域活性化案発表会

佐渡中等教育学校２年生（前期課程）の発表を
他の中等教育学校２年生に配信している様子

【２年生対象の連携授業における事後アンケート結果】
回答者：６校の２年生計 256 名
質問内容：連携授業の満足度及びその理由

肯定的評価	その理由（複数選択）	
80.5%	他校の生徒と意見交換できたから	64.1%
	遠隔で交流するなど、ＩＣＴ技術を体感できたから	23.0%
	探究学習などについて、主体的に取り組むことの大切さを実感できたから	11.7%
	今回のテーマに関心があり、自分の考えや今後の取組の参考になったから	10.9%

Ⅲ　地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築

【総論】

○　地域との連携・協働した取組は、学校が地元自治体等とで探究的な学びやキャリア教育の充実に向けた支援体制を構築することで、生徒が多様な関わり合いを持ちながら地域への理解や郷土愛を深めることができたと考えられる。

○　特に、基礎自治体が小・中学校に県立高校等を加えた一体的・連続的なキャリア教育が地域にとって有為な人材の育成につながるという視点を持ち、多様な団体による教育コンソーシアムの構築や、コーディネーターの配置や地域住民による生徒活動への伴走支援団体の組織化など、地元高校等の教育環境の充実や魅力化・特色化を支援するモデルを本プロジェクトで示すことができた。

○　今後はこうした取組が、中学生やその保護者に広く認知されるとともに、ローカルな視点に留まらない（地域に縛られない）広い学びや、希望する進路の実現やキャリア形成に資するものとなるよう、さらに取組を充実させる必要がある。

○　県立高校等の強みは地域に根ざした活動ができることであることを再認識し、本プロジェクトで取り組んだ地域資源の豊富さ・魅力を活用した探究的な学びの充実とそれを支える地元自治体等との連携・協働体制の構築モデルを、全県の高等学校教育の充実に向けて波及させていくことが重要である。

1　地域資源の活用により多様な大人との関わりや地域理解が促進

阿賀黎明高校では、阿賀町の「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」により、公営塾職員やNPO職員がコーディネーターとして派遣され、地域住民や企業が探究活動への生徒活動への伴走支援団体を結成した。これにより、生徒は、教員や保護者以外の多様な大人と関わり合いを持ちながら、探究活動や学校行事の活性化に取り組むことができた。

佐渡市内の高校等については、佐渡市が構築した佐渡教育コンソーシアムの構築により、地域理解を促進する各種体験活動や島内外の多様な講演等の機会を通じて多様な人材との交流が実現し、そこで得られた学びの成果を、高校生議会の機会等を通じて地域活性化や地域課題の解決策を提言することにつなげることもできた。

こうした取組により、生徒はコミュニケーション能力の高まりなど自己の成長を実感することとともに、地域貢献に対する関心度を高めることができた。一方で、地元中学校からの進学率や、ネットワーク構成校の進路実績等に大きな影響を与えるものとはならなかった。

地元自治体側にとっても地域資源を活用した取組は、小・中学校と連続したキャリア教育を通じて郷土への愛着心醸成や地域を担う人材育成を期待するものとなる。今後は、地域資源（自然・文化・産業等）の豊富さや魅力を再確認する探究的な学びが通じて、学校と地域とが一体となったブランディングに活かすとともに、新たな地方創生人材を生み出すための工夫した取組を一層進める必要がある。

阿賀黎明探究パートナーズによる
探究学習への伴走支援の様子

【参考】学校生活に関する意識調査（新潟県教育委員会実施）におけるネットワーク構成校と全県平均との比較　　回答者：全日制・定時制高校２年及び中等教育学校５年

	令和３年度		令和４年度		令和５年度	
	ネットワーク６校	全県	ネットワーク６校	全県	ネットワーク６校	全県
回答者数	646	23175	684	23497	679	22784
学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。	77.9%	65.8%	76.0%	70.0%	78.0%	72.4%
地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習したりすることで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。	73.8%	68.7%	70.5%	69.7%	75.7%	71.4%
自分の生まれ育った地域に、将来、貢献したいと思いますか。	79.9%	81.6%	80.4%	81.2%	85.1%	81.1%

２　地域協働体制構築の課題と拡充に向けて

本プロジェクトにおける地域協働体制は、次の２つのモデルの成果と課題の検証を進めた。

(1)　１自治体が複数校を支援するモデル（佐渡市・佐渡市内５校）

本モデルにおいては、佐渡市役所はじめ 14 団体の多様な組織によるコンソーシアムが構築され、佐渡市役所に配置されたコーディネーターが市内５校の活動ニーズを把握し、コンソーシアム構成団体の協力範囲とのマッチングを行った。

ただし、学校数が多い分、コーディネーターの業務が過多となる傾向があり、教員数の少ない小規模校ほどコンソーシアムとの連絡調整体制に限界もある。

今後、コンソーシアム全体の連絡調整役である統括コーディネーターと、地域人材を活用して各学校に地域連携支援に関する職員を配置することが望ましく、これに対応した予算措置を検討していく必要がある。

(2)　１自治体が１校を支援するモデル（阿賀町・阿賀黎明高校）

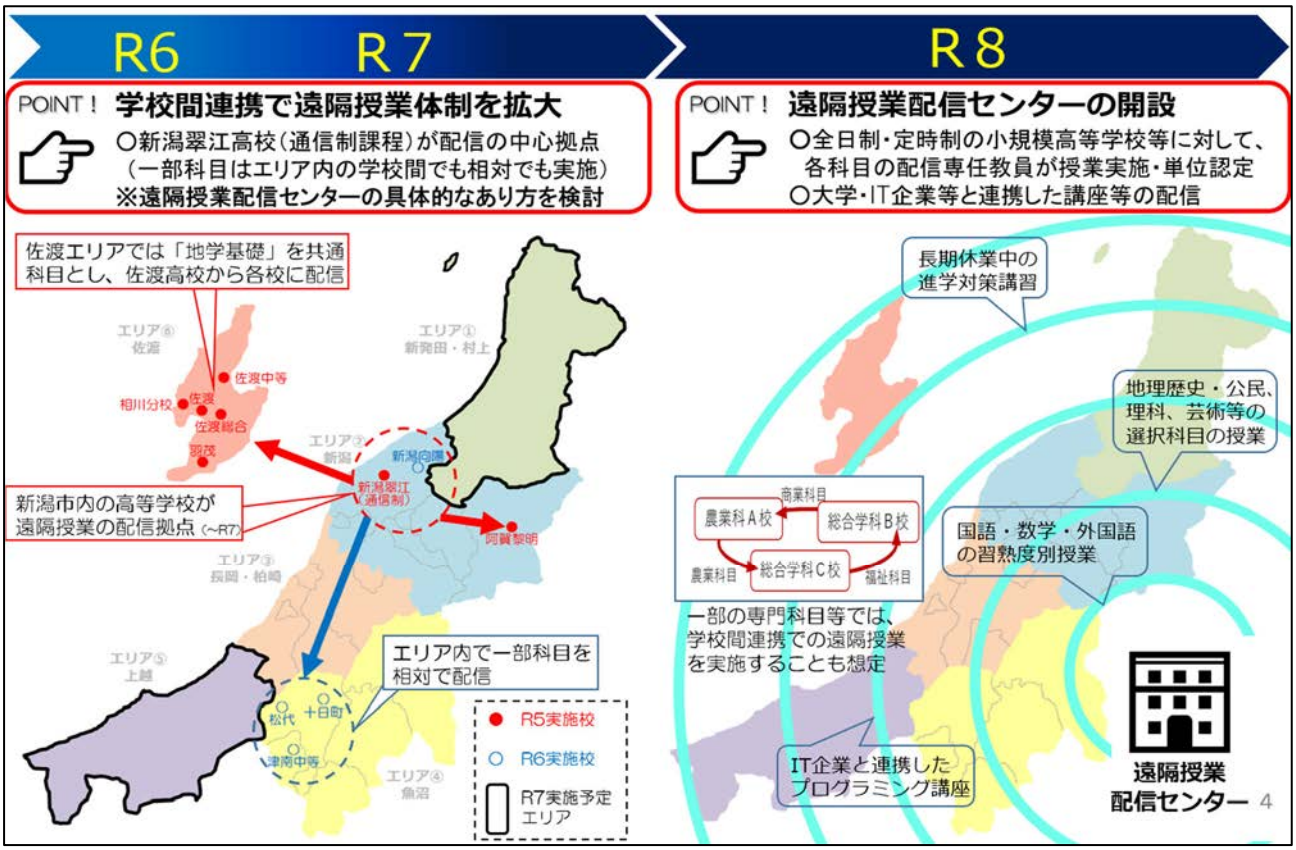
本モデルにおいては、阿賀黎明高校がコミュニティ・スクールに指定されていることから、学校運営協議会を取組方針の議論の場と位置づけ、学校・行政（阿賀町）・住民の三者の調整役として、公営塾職員（地域おこし協力隊）や地元 NPO 代表者をコーディネーターに位置付けて運営した。（下図参照）

一方、今後の取組充実に向けては、取組の評価に係る外部からの指導・助言やデータ分析を取り入れていくことが必要と考えられる。

5. 次年度に向けた計画概要

Ⅰ　遠隔授業の拡充体制の構築に向けて

本プロジェクトの成果と課題を踏まえ、令和６年度・令和７年度までの間で離島・中山間地域以外にも遠隔授業の実施校を拡大して教育の質の維持の確保に努めるとともに、令和８年度を目途とした遠隔授業配信センターの設置に向けて、役割・機能の整理や設置先等のあり方検討を進めるとともに、配信側・受信側双方のスキル向上や人材育成に向けた体制も構築していく。



遠隔授業の拡充に向けた構想図

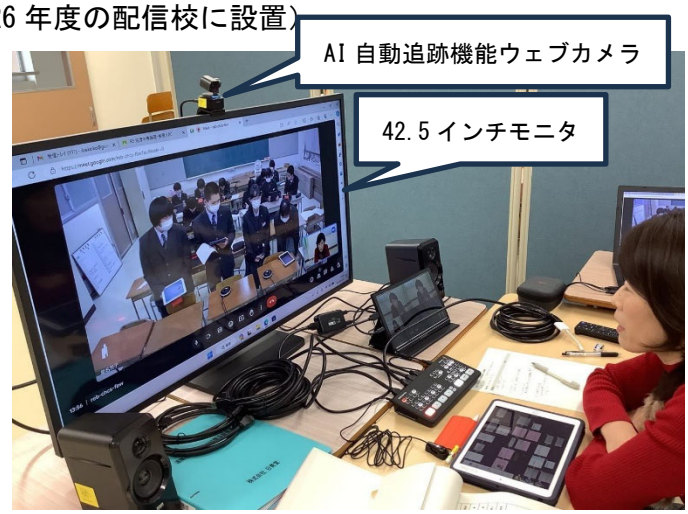
【参考】遠隔授業システムの機器変更（R6 年度の配信校に設置）

○AI 自動追跡ウェブカメラの導入

配信教員が黒板を利用するなど、着座位置から動きがある場合にカメラ調整の手間を省いて円滑に授業を実施できるよう、被写体を AI で自動追跡するウェブカメラを導入した。

○ディスプレイの大型化

今後の複数校同時配信の実施拡大を念頭に、受信側教室の把握のしやすさを確保するため、当初導入した 28 インチディスプレイから 42.5 インチディスプレイに変更した。



機器変更を伴った新遠隔授業システムによる試行の様子

1　令和６年度の遠隔授業の実施について

本プロジェクトの対象校７校に新潟市内２校及び魚沼地域の３校を加えた計 12 校で遠隔授業を実施する。

(1) 実施校

	学校名	課程	学科	所在エリア	配信	受信	備考
1	新潟翠江高等学校	通信制	普通科	新潟	○		配信の中心拠点
2	新潟東高等学校	全日制	普通科	新潟	○		
3	新潟向陽高等学校	全日制	普通科	新潟	○		
4	阿賀黎明高等学校	全日制	普通科	新潟		○	
5	十日町高等学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	エリア内でも相対実施
6	松代高等学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	
7	津南中等教育学校	全日制	普通科	魚沼	○	○	
8	佐渡高等学校	全日制	普通科	佐渡	○		
9	佐渡高等学校相川分校	定時制	普通科	佐渡		○	
10	羽茂高等学校	全日制	普通科	佐渡		○	
11	佐渡総合高等学校	全日制	総合学科	佐渡		○	
12	佐渡中等教育学校	全日制	普通科	佐渡		○	

(2) 実施教科・科目（予定）

	教科	科目	配信校	受信校			通年実施単位認定	備考
				学校名	学年	単位数		
1	国語	古典探究	新潟翠江	羽茂	3	2	○	
2	地理歴史	地理総合	新潟翠江	羽茂	3	2	○	
3		地理探究	新潟翠江	津南中等	5	2	○	
4	公民	政治・経済	新潟翠江	阿賀黎明	3	2	○	
5		政治・経済	新潟翠江	佐渡総合	2	2	○	
6		政治・経済	十日町	津南中等	5	3	○	
7	理科	化学基礎	新潟翠江	羽茂	2	2	○	
8		生物	新潟東	阿賀黎明	3	4	○	受信側合同授業
9		生物	新潟東	松代	3	4	○	受信側合同授業
10		地学基礎	佐渡	阿賀黎明	2	2	○	受信側合同授業
11		地学基礎	佐渡	羽茂	2	2	○	受信側合同授業
12		地学基礎	佐渡	佐渡総合	2	2	○	
13		地学探究	佐渡	佐渡中等	6	2	○	
14	外国語	英語総合	新潟翠江	十日町	3	2	○	
15	芸術	書道Ⅰ	新潟向陽	阿賀黎明	1	2	○	
16		書道Ⅰ	新潟東	相川分校	2	2	○	
17	情報	情報Ⅰ	新潟翠江	佐渡中等	1	2	○	
18		情報Ⅰ	松代	津南中等	4	2	○	
19		情報Ⅰ	松代	津南中等	4	2	○	
20	福祉	社会福祉基礎	新潟向陽	佐渡総合	2	2	○	
21	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	津南中等	十日町	1	1		スポット配信

2　ICT を活用した遠隔授業や学校間連携に関する後継事業について（令和６年度県予算事業）

多様で柔軟な学びの推進に向けた遠隔教育配信拠点形成事業（15,033 千円）

(1) 遠隔教育配信センター（R8 設置予定）のあり方検討

○外部有識者によるワーキンググループ会議の開催

○外部アドバイザーの採用

○センター設置先の検討及び通信ネットワーク環境アセスメント調査の実施

(2) 学校間配信（R7 実施校）環境整備事業

○令和７年度遠隔授業実施エリアへ遠隔授業システム機器を導入

【エリア別の全日制高校１校あたりの募集学級数（『高校等再編整備計画 R5.7』より）】

	村上･新発田	新津･五泉	新潟	三条･西蒲	長岡･柏崎	魚沼	上越	佐渡
R6	3.7	3.7	6.8	3.8	3.9	3.2	3.5	2.8
R8	3.8	3.5	6.6	3.9	3.8	3.1	3.5	2.2
増減	0.1	▲0.2	▲0.2	＋0.1	▲0.1	▲0.1	±0.0	▲0.6
備考		R4 遠隔開始				R6 遠隔開始		R4遠隔開始

(3) 配信側調整員（１校）及び受信側支援員（４校）の配置及び育成

○配信側調整員

・目的及び役割　遠隔授業の配信調整業務(配信受信校の時間割調整、配信教員・受信校とのミーティング等)

・教員免許　有が望ましいが必須ではない

○受信側支援員　※国の遠隔授業関連の制度改正（下図参照）を踏まえた措置

・目的及び役割　遠隔授業実施に係る機器関係の事前・事後業務、遠隔授業時の受信補助業務（機器操作の支援や記録作成）

・教員免許　無くてよい

「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた制度改正の概要（2/2）

2 「高等学校等におけるメディアを利用して行う授業の実施に係る留意事項」（通知）改正関係　（令和６年４月１日～）

（1）受信側の教室等への教員配置

以下の場合においては、例外的に、受信側の教室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しない

①以下を全て満たし、教員に代えて学習指導員や実習助手、事務職員等の当該高校等の職員（校長の指揮監督下）を配置する場合

- 受信側の教室等に当該高校等の教員の配置を求めることが、多様な科目開設や習熟度別指導等により生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を行うに当たっての支障となる
- 受信側の教室等における生徒の数や生徒が必要とする援助の内容等に照らし、教育上支障がないと当該高等学校等の校長が認める場合

※ただし、当該高等学校等ごとの教員数が、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（昭和36年法律第188号）の定めるところによる教職員の定数の標準を満たしていることが前提（教員数の合理化を目的に安易に教員に代えて職員を配置することは本特例措置の趣旨に合致しない）

②不登校生徒に対し、自宅その他特別な場所（教育支援センター、校内教育支援センター、保健室 、その他当該高等学校等内の別室等）において、メディアを利用して行う授業の配信を行う場合

（2）対面により行う授業の時間数

以下の場合においては、例外的に、対面により行う授業の時間数を各教科･科目等ごとに年間1単位時間とすることも認められる

①以下を全て満たす場合

- メディアを利用して行う授業の配信を受ける高等学校等が離島･中山間地域等の遠方に立地することにより、配信側の教員の移動に日数を要し、当該教員による他の高等学校等への授業の実施に支障を伴う
- 同時に授業を受ける生徒数が少人数であるため個々の生徒の学習状況が遠隔でも把握しやすい状況にある
- 配信側の教員が過年度における授業を担当している等、配信側の教員と受信側の生徒との間の人間関係が既に構築されており、当該受信側の生徒が必要とする援助の程度に照らしてもメディアを利用しての授業の実施に支障がないと受信側の高等学校等の校長が認める場合

②病気療養中等の生徒であって、当該生徒の病状や治療の状況、医師等の意見等を踏まえ、対面により行う授業を複数回行うことが難しいと高等学校等の校長が認める場合

（3）その他配慮いただきたい事項（柔軟な履修等）

教務規程等において、慣例として、授業への出席の回数を履修や単位認定の要件として課しているところ、遠隔授業や通信教育の実施、補講その他適切な指導の実施等により、生徒一人一人の実情に応じて柔軟に履修･単位修得を認めることが望まれる

【主な留意点等】

･教育上支障がないと認められる場合…（上記（1）関係）　以下の①、②をともに満たすこと。

① 受信側の教室等の生徒数、活用するメディアの態様等を踏まえて、配信側の教員が生徒一人一人の学習状況を見取ることが可能な人数規模で、授業を実施するものであること。（実証結果に基づき、大型ディスプレイ越しに生徒の様子を確認する場合で最大5名程度、1人1台端末を活用した画面共有機能や共同編集機能等による場合で最大15～20名程度以下）

② 配信側の教員と、受信側の教室等に配置される職員とが授業の進め方や生徒の状況に係る事前の打合せを行い、役割分担を明確化した上で、遠隔授業が実施されること。また、受信側の教室等に配置される職員が、当該役割を十分に認識し、果たすことができる者であること。

･自宅で遠隔授業を受けた場合の出欠…　出席扱いにすることが可能。その際、画面やチャットツール等を通じて生徒の学習状況を把握することにより、出席扱いと認めることが考えられる。

2

「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について（通知）」添付資料より
（令和 6 年 2 月 13 日５文科初第 2030 号より文部科学省）

(4) 中等教育学校における同学年同士等のオンライン連携講演会等の実施

Ⅱ　高校と地域との連携・協働体制の全県波及に向けて

1　高校と地域との連携・協働体制構築事業（15,000 千円）

(1) 事業趣旨

「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」（R3～R5）の事業成果を踏まえ、学校と地域との連携・協働に取り組む活動により、本県高等学校等の教育環境の充実を図る。

SaGaSu プロジェクト（地域コンソーシアム）の事業成果

①学校側視点の事業成果

・コンソーシアム構築により、関連団体、地域住民等が授業や課外活動に関与、伴走する体制が整い、生徒が教員・保護者以外の多様な大人と関わる環境を確保

→教員だけではなしえない専門的・実践的な学びの環境や、コミュニケーション能力の高まりなどの成長を実感

②地域側視点の事業成果

・学校側と地方創生人材や地方産業等を支える人材育成ビジョンを明確に共有でき、コーディネーターを配置した上で地域資源を活用した具体的な取組を展開

→地域住民等が地元高校への関心を高める契機となり、離島・中山間地域の活性化の一助

(2) 事業内容

学校と地元自治体等との連携・協働した体制構築及びそれに関連した取組を行う学校を支援する。

○事業期間　２年間

○総事業費 1,500 万円（令和６年度）　※令和７年度は未定

○指定件数　５件程度（１件当たり 300 万円を上限）

(3) 実施校の選定

○公募制による選定を行う。

○選定方針については、別に定める。

(4) 事業費

○対象経費は次のとおりとする。

費目	摘要
報酬	会計年度任用職員任用に係る報酬（別紙「県立学校地域連携学習支援員取扱要領」に基づく採用を原則とする）
報償費	講師謝金等（講師謝金の１時間当たりの基準　大学教授級 ¥7,300、大学准教授級 ¥6,300、民間講師 ¥3,800）
旅費	職員旅費及び費用弁償旅費
需用費	50,000円未満の物品購入、報告書作成に係る印刷費
役務費	保険料、切手代等
委託料	外部への各種業務委託
使賃料	会場借上料、バス借上料等

(5) 年次計画（想定）

<table>
<tr><th></th><th>R6
（取組1年目）</th><th>R7
（取組2年目）</th><th>R8
（取組3年目） 自走化</th></tr>
<tr><td rowspan="2">事業校</td><td>○地域連携をベースとしたカリキュラムの見直し・検討
○探究学習等に関する学校間連携の内容やスケジュールの調整
○コーディネーターの採用</td><td>○コンソーシアム等への意見聴取を踏まえ、新カリキュラム決定
○校時表の一部共通化（時間割を合わせることで合同活動が円滑化）
○コーディネーターによる取組調整</td><td>○地域連携・協働の視点を踏まえた「「総合的な探究の時間」及び学校設定科目による授業及び課外活動の実施
○校時表の共通化
○複数コーディネーターの配置検討</td></tr>
<tr><td>○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の実施、校内発表</td><td>○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の合同実施、発表</td><td>○探究学習に係る講演会や現地研修、企業実習等の合同実施、発表</td></tr>
<tr><td rowspan="3">地元自治体等</td><td>○コンソーシアムの構築（上期）
・構成団体の調整・決定
→総会の開催（キックオフ）
ワーキンググループ（構成団体実務担当者で構成）</td><td>○コンソーシアムの運営
・総会の開催（3回）
活動の基本方針決定や活動評価
・ワーキンググループの定期開催
学校への具体の支援内容を協議</td><td rowspan="2">左記活動の発展・充実</td></tr>
<tr><td>○コンソーシアム構成団体の協力による各学校の取組や学校間連携に対する人材派遣や体験活動や企業実習等の実施
○阿賀町をモデルとした地元企業・住民等で構成された「探究活動伴走団体」の組織化</td><td>○高校生の成果発表の場の設定
・佐渡市をモデルとした「高校生議会」の開催
・各種プレゼン機会の提供
○コンソーシアム構成団体及び探究活動伴走団体の協力による、各学校の取組や学校間連携に対する人材派遣や体験活動や企業実習等の実施、伴走</td></tr>
<tr><td>○コンソーシアム構成団体対象のワークショップや先進県視察実施
・地域連携に関する意識啓発講演会や他地域との情報交換</td><td>○R8以降の自走化に向けた資金調達等の具体的検討</td><td>○コンソーシアム関係団体や協力者の増加、資金調達手段の拡充を目的とした広報活動</td></tr>
<tr><td>教育委員会</td><td colspan="2">○スタートアップ事業による支援と自走化に向けた指導・助言</td><td>事業総括の成果発表会を開催</td></tr>
</table>

Ⅲ　県立高校等のあり方の検討に向けて

本県では、令和５年度から令和６年度にかけて、中長期の視点に立った「県立高校の将来構想」を策定することとしており、下記の課題の整理や、本プロジェクトで得た成果と課題等の知見を踏まえながら、県立高校のあり方について検討を進めていく。

○　本県高等学校等における課題の整理

◇　中学校卒業者数の減少

- 県立高校の小規模化
- 学校数を維持したままでの学級数調整の限界
- 望ましい学校規模の考え方
- 小規模化による多様な科目選択の制限
- 地域の特性等により存続が必要な小規模校の特色化

◇　教育のニーズの多様化

- 定時制・通信制高校の進学者増加への対応
- 公教育としての質の高い学びを保障する定時制・通信制教育
- 県立定時制・通信制高校の再編
- 普通科・専門学科の役割と特色化

◇　ICT を活用した教育の加速度的な進展

- 遠隔教育の効果と限界
- 遠隔教育の役割の明確化

◇　県立高校等のあり方

- 「新潟県教育振興基本計画」（令和５年３月改定）を踏まえた県立高校等における今後の方向性